



AsReader ASR-A24D/ASR-M24D

バーコード設定マニュアル

株式会社アスタリスク

第 5.0 版

※本書は予告なしに修正されることがあります。

改訂履歴

版数	発行日	改訂内容
第 1.0 版	2022/06/20	初版発行
第 2.0 版	2023/01/30	下記設定項目を追加 ・パラメータスキャンのロック/ロック解除 ・電源投入時のビープ音制御 ・デコードセッションのタイムアウト ・同一シンボルのトリガータ임アウト ・ミラーイメージの読取 ・PDF の優先読取 PDF 優先読取のタイムアウト
第 3.0 版	2023/03/03	下記設定項目を追加 ・ピックリストモード ・OCR の基本設定 ・OCR-A の有効無効 ・OCR-A のフォーマット指定 ・OCR-B の有効無効 ・OCR-B のフォーマット指定 ・OCR の指向性設定
第 4.0 版	2024/09/02	・パラメータ変更方法の追記 ・フォーマットの調整
第 5.0 版	2024/09/30	ASR-M24D 対応 トリガーモード[Trigger Mode]の追加 バーコードの連続読み取り[Continuous Barcode Read]の追加

工場出荷時設定一覧

Parameter	値	設定頁
デフォルトパラメータ [Set Default Parameter]	N/A	2
パラメータスキャンのロック/ロック解除	Unlock	3
電源投入時のビープ音制御	Do not suppress	4
デコードセッションのタイムアウト	5.0 sec	4
同一シンボルのトリガータ임アウト	Disable	5
ミラーイメージの読取	Disable	5
PDF 優先読取	Disable	6
PDF 優先読取のタイムアウト	0.2 sec	6
パラメータスキャン [Parameter Scanning]	Enable	7
読み取り成功時のビープ音 [Beep After Good Decode]	Enable	7
ビープ音の音程 [Beeper Tone]	Medium Beep Tone	8
ビープ音の音量 [Beeper Volume]	High Volume	9
ビープ音の長さ [Beeper Duration]	Medium	10
照準光の有効/無効 [Decode Aiming Pattern]	Enable	11
トリガーマード[Trigger Mode]	Standard	11
ピックリストモード[Picklist Mode]	Disable	12
バーコードの連続読み取り[Continuous Barcode Read]	Disable	12
Enter キー[Enter Key]	N/A	13
Tab キー[Tab Key]	N/A	13
コード ID キャラクタの転送 [Transmit Code ID Character]	None	13
プレフィックス/サフィックス [Prefix/Suffix Values]	7013<CR><LF>	14
スキャンデータ転送フォーマット [Scan Data Transmission Format]	Data as is	15
「NR（読み取りなし）」メッセージの転送 [Transmit "No Read" Message]	Disable	17
全てのバーコードを有効/無効化	N/A	18
UPC-A の有効無効	Enable	18
UPC-E の有効無効	Enable	19
UPC-E1 の有効無効	Disable	19
EAN-8/JAN-8 の有効無効	Enable	20

EAN-8 チェックディジットの転送 [Transmit EAN-8 Check Digit]	Transmit EAN-8 Check digit	20
EAN-13/JAN-13 の有効無効	Enable	21
EAN-13 チェックディジットの転送 [Transmit EAN-13 Check Digit]	Transmit EAN-13 Check digit	21
Bookland EAN の有効無効	Disable	22
Bookland ISBN フォーマット	ISBN-10	23
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り	Ignore Supplementals	24
ユーザーが設定できるサプリメンタル [User-Programmable Supplementals]	N/A	26
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り繰返回数 [UPC/EAN/JAN Supplemental Redundancy]	N/A	29
JAN (UPC/EAN)の補足 AIM ID フォーマット	Combined	30
UPC-A チェックディジット	Transmit	31
UPC-E チェックディジット	Transmit	31
UPC-E1 チェックディジット	Transmit	32
UPC-A プリアンブル	System Character	33
UPC-E プリアンブル	System Character	34
UPC-E1 プリアンブル	System Character	35
UPC-E から、UPC-A への変換	Do not convert	36
UPC-E1 から、UPC-A への変換	Do not convert	36
EAN-8/JAN-8 ゼロ拡張	Disable	37
UCC クーポン拡張コード	Disable	38
クーポンレポート	New Coupon Symbols	39
UPC リデュースドクワイエットゾーン [UPC Reduced Quiet Zone]	Disable	40
ISSN EAN	Disable	41
Code128 の有効無効	Enable	42
Code128 の長さの選択	Any length	42
GS1-128 (元 UCC/EAN-128) の有効無効	Enable	44
ISBT128 の有効無効	Enable	44
ISBT の連結	Disable	45
ISBT テーブルのチェック	Enable	46

ISBT 連結の読み取り繰返回数	N/A	46
Code 128 <FNC4>	Honor Code 128	47
Code 128 セキュリティレベル[Code 128 Security Level]	Security Level 1	48
Code 128 リデュースドクワイエットゾーン [Code 128 Reduced Quiet Zone]	Disable	50
Code39 の有効無効	Enable	51
Trioptic Code39 の有効無効	Disable	51
Code39 から Code32 への変換 (イタリアンファーマコード)	Disable	52
Code32 プレフィックス	Disable	52
Code39 の長さ設定	Length within range	53
Code39 チェックディジットの検証	Disable	55
Code39 チェックディジットの転送	Do not transmit	55
Code39 Full ASCII の有効無効	Disable	56
Code39 セキュリティレベル[Code 39 Security Level]	Security level 1	57
Code 39 リデュースドクワイエットゾーン [Code 39 Reduced Quiet Zone]	Disable	59
Code93 の有効無効	Enable	60
Code93 の長さ設定	Length within range	61
Code11 の有効無効	Disable	63
Code11 の長さ設定	Length within range	64
Code11 チェックディジットの整合性	Disable	66
Code11 チェックディジットの転送	Do not transmit	67
Interleaved 2 of 5 の有効無効	Enable	68
Interleaved 2 of 5 の長さ設定	Length within range	69
Interleaved 2 of 5 チェックディジットの整合性	Disable	71
Interleaved 2 of 5 チェックディジットの転送	Do not transmit	71
フェブラバン[Febraban]	Disable	72
Interleaved 2 of 5 から EAN-13 への変換	Do not convert	73
I 2 of 5 の読み取り精度レベル [I 2 of 5 Security Level]	Security level 1	74
I 2 of 5 リデュースドクワイエットゾーン [I 2 of 5 Reduced Quiet Zone]	Disable	75
Discrete 2 of 5 の有効無効	Disable	76
Discrete 2 of 5 の長さ設定	Length within range	77
NW7 (Codabar)の有効無効	Enable	79

NW7 (Codabar)の長さ設定	Length within range	80
CLSI Editing	Disable	82
NOTIS Editing	Disable	82
Codabar のセキュリティレベル[Codabar Security Level]	Security level 1	83
NW7 (Codabar)の最初と最後の文字の、大文字・小文字判別	Upper Case	84
Codabar Mod16 チェックディジット検証 [Codabar Mod 16 Check Digit Verification]	Disable	84
Codabar チェックディジットの転送 [Transmit Codabar Check Digit]	Disable	86
MSI の有効無効	Disable	87
MSI の長さ設定	Length within range	88
MSI のチェックディジットの整合性	One MSI check digit	90
MSI チェックディジットの転送	Do not transmit	91
MSI チェックディジットアルゴリズム	MOD 10/10	92
MSI リデュースドクワイエットゾーン [MSI Reduced Quiet Zone]	Disable	92
Chinese 2 of 5 の有効無効	Disable	93
Matrix 2 of 5 の有効無効	Disable	94
Matrix 2 of 5 の長さ設定	Length within range	95
Matrix 2 of 5 のチェックディジットの整合性	Disable	97
Matrix 2 of 5 の転送	Do not transmit	97
Korean 3 of 5 の有効無効	Disable	98
反転 1D コード [Inverse 1D]	Regular	99
US Postnet の有効無効	Disable	100
US Planet の有効無効	Disable	101
US Postal チェックディジットの転送	Transmit	102
UK Postal の有効無効	Disable	103
UK Postal のチェックディジットの転送	Transmit	103
Japan Postal の有効無効	Disable	104
Australia Post の有効無効	Disable	104
Australia Post フォーマット	Autodiscriminate	105
Netherlands KIX Code の有効無効	Disable	106
USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail の有効無効	Disable	107

UPU FICS Postal の有効無効	Disable	107
Mailmark の有効無効	Disable	108
GS1 DataBar Omnidirectional の有効無効	Enable	109
GS1 DataBar Limited の有効無効	Enable	109
GS1 DataBar Limited セキュリティレベル	Security level 1	110
GS1 DataBar Expanded の有効無効	Enable	111
GS1 DataBar から JAN(UPC/EAN)への変換	Disable	112
GS1 DataBar セキュリティレベル	Security level 1	113
Composite CC-C の有効無効	Disable	114
Composite CC-A/B の有効無効	Disable	114
Composite TLC-39 の有効無効	Disable	115
Composite Inverse	Regular Only	115
UPC Composite モード	UPC never linked	116
Composite ビープモード	Beep at each code	117
UCC/EAN Composite コードの GS1-128 エミュレーションモード	Disable	118
PDF417 の有効無効	Enable	119
MicroPDF417 の有効無効	Disable	120
Code 128 Emulation	Disable	120
Data Matrix の有効無効	Enable	121
GS1 Data Matrix の有効無効	Disable	121
Data Matrix (反転)の有効無効	Regular	122
鏡面イメージ (Data Matrix のみ)	Auto	123
Maxicode の有効無効	Disable	124
QR Code の有効無効	Enable	124
GS1 QR の有効無効	Enable	125
MicroQR の有効無効	Enable	126
Linked QR Mode	Linked QR only	126
Aztec の有効無効	Enable	128
Aztec (反転) の有効無効	Inverse Autodetect	129
Han Xin の有効無効	Disable	130
Han Xin (反転) の有効無効	Regular	130
Grid Matrix の有効無効	Disable	131
Grid Matrix (反転) の有効無効	Regular	131

Grid Matrix Mirror	Regular	132
DotCode の有効無効	Disable	133
DotCode (反転) の有効無効	Autodetect	134
DotCode Mirrored	Autodetect	135
DotCode Prioritize	Enable	136
読み取り精度レベル [Redundancy Level]	Level 1	137
4 値コードタイプの読み取り精度レベル [Security Level (UPC/EAN and Code 93)]	Level 1	139
1D クワイエットゾーンレベル[1D Quiet Zone Level]	Level 1	141
キャラクタ間ギャップサイズ	Normal	146
OCR の基本設定[Prerequisite]	N/A	147
OCR-A の有効無効	Disable	144
OCR-A のフォーマット指定[OCR-A Variant]	OCR-A Full ASCII	144
OCR-B の有効無効	Disable	146
OCR-B のフォーマット指定[OCR-B Variant]	OCR-A Full ASCII	146
OCR の指向性設定 [OCR Orientation]	OCR Orientation 0°	150
補足情報：ASCII コード表	N/A	Z-1
補足情報：数字バーコード	N/A	Z-6
補足情報：シンボルコード ID 表	N/A	Z-8
補足情報：AIM コード ID 表	N/A	Z-10
補足情報：修飾キャラクタ表	N/A	Z-11

パラメータの設定にあたって

パラメータを設定するときは、AsReader ASR-A24D / ASR-M24D（以降 AsReader と表示する）及びスマートデバイスのバッテリーが十分にある状態で行って下さい。

パラメータ変更の方法

このバーコード設定マニュアルから、適切なバーコードを選んでスキャンしてください。

・バーコード設定変更手順

1. AsReader にスマートデバイスを接続してください
2. スマートデバイスにて、バーコードの読取りができるアプリケーションを立ち上げて下さい
3. 設定を変更したい項目の設定バーコードを読み取ってください
4. 上記アプリケーションを再起動してください

※設定バーコード読取時、スマートデバイスの画面には何も表示されません

※設定バーコード読取成功時に Beep 音が鳴ります。

※アスタリスク（*）がついている設定バーコードは AsReader のデフォルト値を示します。

設定バーコード表示例)



*はデフォルト値を示します

*High Volume
(00h)

機能またはオプション

オプションの Hex 値

■ユーザ設定 [User Preferences]

デフォルトパラメータ [Set Default Parameter]

以下のバーコードのいずれかをスキャンして、AsReader を工場出荷時設定またはカスタムデフォルト設定にリセットすることができます。

・Restore Defaults —このバーコードをスキャンして、以下のいずれかのデフォルト値へ AsReader をリセット出来ます。

— 以前に Write to Custom Defaults をスキャンしてカスタムデフォルトを設定していた場合、このバーコードをスキャンすると AsReader がカスタムデフォルト設定に戻ります。

— カスタムデフォルトを設定していない場合、このバーコードをスキャンすると AsReader が工場出荷時設定に戻ります。



***Restore Defaults**

・Set Factory Defaults —このバーコードをスキャンすると、AsReader が工場出荷時設定へリセットされます。全てのカスタムデフォルト設定値も削除されます。



Set Factory Defaults

・Write to Custom Defaults —このバーコードをスキャンすると、現在の設定をカスタムデフォルトに設定します。

一度設定されると、Restore Defaults をスキャンすることで、カスタムデフォルトへ戻せます。



Write to Custom Defaults

パラメータスキャンのロック/ロック解除[Lock/Unlock Parameter Scanning]

パラメータスキャンをロックするためには、パラメータ設定が有効である必要があります。パラメータスキャンがロックされると、パラメータスキャンの有効または無効バーコードをスキャンすると、パラメータエラーのビープ音が鳴ります。

パラメータスキャンをロックするには：

1. Lock バーコードをスキャンします。
2. 数字バーコードから、希望するコードを表す 4 つのバーコードをスキャンします。1000 以下の数字にはゼロを補填します。

パラメータスキャンを解除するには、

1. Unlock バーコードをスキャンします。
2. 数字バーコードから正しいコードを表すバーコードを読み取る。



Lock



Unlock

電源投入時のビープ音制御[Suppress Power Up Beeps]

以下のいずれかのバーコードをスキャンして、リーダーの電源投入時のビープ音を鳴らすかどうかを設定します。



***Do Not Suppress Power Up Beeps
(0)**



**Suppress Power Up Beeps
(1)**

デコードセッションのタイムアウト[Decode Session Timeout]

デコードセッションを終了するまでの時間を設定します。

- ・1 回のスキャン中にデコード処理を行う最大時間を設定します。
- ・このパラメータは 0.5 秒から 5.0 秒まで 0.1 刻みで設定可能です。
- ・設定するには、以下のバーコードを読み取った後、希望する時間に対応する 2 つのバーコードを数値バーコードから読み取ります。
- ・1桁の数字の場合は、「0」を入力します。
- ・エラーを修正したり、選択を変更したりする場合は、キャンセルをスキャンしてください。



Decode Session Timeout



Cancel

同一シンボルのトリガータイムアウト[Triggered Timeout, same symbol]

一定時間の間同一シンボル読取をしない設定です。



Enable Triggered Timeout, Same Symbol
(1)



* Disable Triggered Timeout, Same Symbol
(0)

ミラーイメージの読取[Mirrored Image]

鏡で見たようなバーコードのミラーリングや反転の有効・無効を設定します。



* Disable Mirrored Image
(00h)



Enable Mirrored Image
(01h)

PDF 優先読取[PDF Prioritization]

- ・PDF417 を遅延時間内に読み取ってから 1 次元バーコードを読み取ります。
- ・（米国免許証は従来 1 次元バーコードでしたが、現在は 2 次元の PDF417 を使用しています。このオプションにより、これらの運転免許証を読み取ることができます。）



Enable PDF Prioritization
(1)



*Disable PDF Prioritization
(0)

PDF 優先読取のタイムアウト[PDF Prioritization Timeout]

- ・PDF 優先読取を有効にした場合、リーダーが PDF417 シンボルのデコードを試行してから、視野内の 1 次元バーコードのデータを表示するまでの時間を設定します。
- ・以下のバーコードをスキャンし、タイムアウトをミリ秒で指定する数字バーコードから 4 つのバーコードをスキャンしてください。範囲は 0～5000ms で、デフォルトは 200ms です。



PDF Prioritization Timeout

パラメータスキャン [Parameter Scanning]

Disable Parameter Scanning をスキャンすると、パラメータバーコードの読取が無効（Set Defaults parameter バーコードも含む）になります。

パラメータバーコードの読取を可能にするには、Enable Parameter Scanning をスキャンしてください。



***Enable Parameter Scanning
(01h)**



**Disable Parameter Scanning
(00h)**

読み取り成功時のビープ音 [Beep After Good Decode]

以下のバーコードをスキャンすると、読み取り後のビープ音を鳴らすか選択出来ます。そして、Do Not Beep After Good Decode を選んだ場合でも、パラメータメニューのスキャン中や、エラーの場合はビープ音が鳴ります。



***Beep After Good Decode
(Enable)
(01h)**



**Do Not Beep After Good Decode
(Disable)
(00h)**

ビープ音の音程 [Beeper Tone]

下記のいずれかのバーコードをスキャンして、ビープ音の音程を選択してください。



Disable Beep Tone (3)

Standard Beep Tones



Low Beep Tone (2)



*Medium Beep Tone (1)



High Beep Tone (0)

ビープ音の音量 [Beeper Volume]

Low Volume、Medium Volume、または High Volume がバーコードをスキャンし、ビープ音量を選択してください。



Low Volume
(02h)



Medium Volume
(01h)



*High Volume
(00h)

ビーブ音の長さ [Beeper Duration]

以下のバーコードのいずれか 1 つをスキャンし、音の長さを設定して下さい。



Short
(00h)



* Medium
(01h)



Long
(02h)

照準光の有効／無効 [Decode Aiming Pattern]

照準光の有効／無効を設定します。



* Enable Decode Aiming Pattern
(02h)



Disable Decode Aiming Pattern
(00h)



Enable Decode Aiming Pattern on PDF (3)

トリガーモード [Trigger Mode] ※ASR-M24D 専用の設定項目

・標準 (レベル)

トリガーを押すと、読み取りが開始されます。バーコードの読み取りが完了する、トリガーを 放す、または読み取りセッションタイムアウトが発生するまで、読み取り動作は継続されます。



*Standard (Level)
(0)

・プレゼンテーションモード

読み取り範囲内でバーコードを検出すると、読み取りを実行します。待機状態になってしばらくすると、ローパワーモードになり、動きを感知するまで LED が消灯します。



Presentation (Blink)
(7)

ピックリストモード [Picklist Mode]

ピックリストモードでは、照準光の中央にあるバーコードのみを読み取ります。
下記のバーコードでピックリストモードの有効または無効を設定してください。



**Enable Picklist Mode Always
(2)**



***Disable Picklist Mode Always
(0)**

バーコードの連続読み取り[Continuous Barcode Read]※ASR-M24D 専用の設定項目

トリガが押されている間、バーコードを連続して読み取ります。このモードは「プレゼンテーションモード」では適用されません。

※注意

この機能を使用する際は「ピックリストモード[Picklist Mode]」を有効にしておくことを強くお勧めします。
「ピックリストモード [Picklist Mode]」を無効にすると、読み取り範囲内に複数のバーコードがある場合に、目的以外のバーコードを誤って読み取ることがあります。



**Enable Continuous Barcode Read
(1)**



***Disable Continuous Barcode Read
(0)**

Enter キー[Enter Key]

次のバーコードをスキャンして、データの後 Enter キー（キャリッジリターン/ラインフィード）を追加します。他のプレフィックスやサフィックスを設定するには、「[プレフィックス/サフィックス](#)」設定を参照してください。



Add Enter Key (Carriage Return/Line Feed)

Tab キー[Tab Key]

次のバーコードをスキャンして、データに Tab キーを追加します。



Tab Key

コード ID キャラクタの転送 [Transmit Code ID Character]

バーコードを読み取った際、指定されたコード ID キャラクタをバーコードデータの前に付加して転送します。プレフィックスがすでに付加されている場合、コード ID キャラクタは、プレフィックスとバーコードデータの間に加えられます。

シンボルコード ID キャラクタについては、[【補足情報：シンボルコード ID 表】](#)を、AIM コード ID については [【補足情報：AIM コード ID 表】](#)を参照してください。

※注意

シンボルコード ID または AIM コード ID 有効にし、さらに「[【NR（読み取りなし）】メッセージの転送](#)」を有効にした場合、NR メッセージに Code39 のコード ID が追加されます。



Symbol Code ID Character
(02h)



AIM Code ID Character
(01h)



*None
(00h)

プレフィックス／サフィックス [Prefix/Suffix Values]

データ編集に使用するためのデータをスキャンする際に、1 つのプレフィックスおよび 1 つまたは 2 つのサフィックスを追加できます。

プレフィックス／サフィックスに値を設定するために、以下のプレフィックスかサフィックスバーコードをスキャンしてください、次に、その値に対応する 4 桁の数字（【[補足情報：数字バーコード](#)】から 4 つ）をスキャンしてください。最初の桁は、主要なカテゴリ（送るキャラクタのタイプ）を定義し、主要なカテゴリパラメータに保存されます。

残る 3 桁は、キャラクタの値を定義して、デシマル値パラメータに保存されます。主要なカテゴリとデシマル値パラメータの両方を必ず使用して、プレフィックス／サフィックス値を定義してください。4 桁コードについては、【[補足情報：ASCII コード表](#)】を見てください。

入力する途中で数字を間違った際や変更する際には、【[補足情報：数字バーコード](#)】でキャンセルをスキャンしてください。

※注意

プレフィックス／サフィックスを使用するには、次ページの「[スキャンデータ転送フォーマット \[Scan Data Transmission Format\]](#)」を最初に設定します。



Scan Prefix
(07h)



Scan Suffix 1
(06h)



Scan Suffix 2
(08h)



Data Format Cancel

スキャンデータ転送フォーマット [Scan Data Transmission Format]

スキャンデータの形式を変更するには、希望の形式に対応する以下のバーコード 1 つをスキャンしてください。

プレフィックス/サフィックス値の設定については「[プレフィックス/サフィックス \[Prefix/Suffix Values\]](#)」を参照してください。

※注意

このパラメータを使用する場合、プレフィックス/サフィックスを設定するのに ADF ルールを使用しません。



*Data As Is
(00h)



<DATA> <SUFFIX 1>
(01h)



<DATA> <SUFFIX 2>
(02h)



<DATA> <SUFFIX 1> <SUFFIX 2>
(03h)



<PREFIX> <DATA >
(04h)



<PREFIX> <DATA> <SUFFIX 1>
(05h)



<PREFIX> <DATA> <SUFFIX 2>
(06h)



<PREFIX> <DATA> <SUFFIX 1> <SUFFIX 2>
(07h)



「NR（読み取りなし）」メッセージの転送 [Transmit “No Read” Message]

以下のバーコードをスキャンして、“No Read”メッセージを送るかどうかを選択してください。これを有効にすると、トリガを離れた時にデコードが成功しない場合、NR 文字を転送します。無効にすると、シンボルが読み取りに失敗しても、ホストに何も転送されません。

※注意

「NR（読み取りなし）」メッセージの転送を有効にし、さらに「コード ID キャラクタの転送」のシンボルコード ID または AIM コード ID を有効にした場合、NR メッセージに Code 39 のコード ID が追加されます。



Enable No Read
(01h)



*Disable No Read
(00h)

全てのバーコードを有効／無効化



Disable All Code Types



Enable All Code Types

■ JAN (UPC/EAN)

UPC-A の有効無効

有効か無効かを選択して下さい。

- ・ 有効



*Enable UPC-A
(01h)

- ・ 無効



Disable UPC-A
(00h)

UPC-E の有効無効

有効が無効かを選択して下さい。

- ・ 有効



*Enable UPC-E
(01h)

- ・ 無効



Disable UPC-E
(00h)

UPC-E1 の有効無効

有効が無効かを選択して下さい。

※UPC-E1 は UCC(Uniform Code Council)で認証されていない為、
デフォルトでは無効になっています。

- ・ 有効



Enable UPC-E1
(01h)

- ・ 無効



*Disable UPC-E1
(00h)

EAN-8/JAN-8 の有効無効

有効が無効かを選択して下さい。

- ・ 有効



***Enable EAN-8/JAN-8
(01h)**

- ・ 無効



**Disable EAN-8/JAN-8
(00h)**

EAN-8 チェックディジットの転送[Transmit EAN-8 Check Digit]

チェックディジットは、データの整合性を検証するために使用されるシンボルの最後の文字です。次のバーコードのいずれかをスキャンして、バーコードデータに付随する EAN-8 チェックディジットの送信の有無を選択します。データの整合性を保証するために常に検証されます。



***Transmit EAN-8 Check Digit
(1)**



**Do Not Transmit EAN-8 Check Digit
(0)**

EAN-13/JAN-13 の有効無効

有効が無効かを選択して下さい。

- ・ 有効



***Enable EAN-13/JAN-13
(01h)**

- ・ 無効



**Disable EAN-13/JAN-13
(00h)**

EAN-13 チェックディジットの転送[Transmit EAN-13 Check Digit]

チェックディジットは、データの整合性を検証するために使用されるシンボルの最後の文字です。次のいずれかのバーコードをスキャンして、バーコードデータに付随する EAN-13 チェックディジットの送信の有無を選択します。データの整合性を保証するために常に検証されます。



***Transmit EAN-13 Check Digit
(1)**



**Do Not Transmit EAN-13 Check Digit
(0)**

Bookland EAN の有効無効

有効か無効かを選択して下さい。

- ・ 有効



Enable Bookland EAN

(1)

- ・ 無効



*Disable Bookland EAN

(0)

注意：Bookland EAN を有効にしている場合は、「[Bookland ISBN フォーマット](#)」を選択してください。
また、「[UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り](#)」の「サブリメンタルコード付き UPC/EAN/JAN を読み取る」、「サブリメンタルコード付き UPC/EAN/JAN を自動認識する」、「サブリメンタルモードのオプション」の「978/979 サプリメンタルモードを有効にする」を選択してください。

Bookland ISBN フォーマット

Bookland EAN を有効にした場合、下記のいずれかを選択して下さい。

- Bookland ISBN-10

これは、978 で始まる 10 桁のバーコードを読むことができます。979 は、Bookland と認識しません。



*Bookland ISBN-10
(00h)

- Bookland ISBN-13

これは、2007 ISBN-13 プロトコルに合致した EAN13 の 13 桁のバーコードを読みとります。(978、または、979 で始まるコード)



Bookland ISBN-13
(01h)

注意：

Bookland EAN を正常に稼働させるためには、Bookland EAN を有効にした後に、このフォーマットを設定して下さい。

UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り

サプリメンタルとは、指定されたフォーマット規則（UPC-A+2、UPC-E+2、EAN/JAN 13+2 など）に応じて追加されるバーコードのことです。以下のオプションを利用できます。

- ・ **サプリメンタルコード付き UPC/EAN/JAN を無視する**

選択した場合、サプリメンタルシンボル付き UPC/EAN をスキャンすると、UPC/EAN は読み取られますが、サプリメンタルキャラクタは無視されます。



*Ignore Supplementals
(00h)

- ・ **サプリメンタルコード付き UPC/EAN/JAN を読み取る**

を選択した場合、サプリメンタルキャラクタ付き UPC/EAN シンボルのみが読み取られ、サプリメンタルがないシンボルは無視されます。



Decode UPC/EAN/JAN Only With Supplementals
(01h)

- ・ **サプリメンタルコード付き UPC/EAN/JAN を自動認識する**

サプリメンタルキャラクタ付き UPC/EAN は直ちに読み取られます。シンボルにサプリメンタルがない場合、サプリメンタルがないことを確認するために、「[UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り繰返回数](#)」で設定された回数だけバーコードを読み取ってから、このデータを転送します。



Autodiscriminate UPC/EAN/JAN Supplementals
(02h)

- ・ **サブリメンタルモードのオプション**

オプションのいずれかを選択した場合、サブリメンタルキャラクタを含んだプレフィックスで始まる EAN-13 バーコードを直ちに転送します。シンボルにサブリメンタルがない場合、サブリメンタルがないことを確認するために、「[UPC/EAN/JAN サブリメンタルの読み取り繰返回数](#)」で設定された回数だけバーコードを読み取ってから、このデータを転送します。プレフィックスを含まないUPC/EANバーコードは直ちに転送されます。

- **378/379 サブリメンタルモードを有効にする**



- **978/979 サブリメンタルモードを有効にする**

978/979 サブリメンタルモードを選択した場合で、Bookland EAN バーコードをスキャンするときは、「[Bookland EAN の有効無効](#)」を参照して Bookland EAN を有効にしてください。そして、「[Bookland ISBN フォーマット](#)」を参照して形式を選択してください。



- **977 サブリメンタルモードを有効にする**



- **414/419/434/439 サプリメンタルモードを有効にする**



Enable 414/419/434/439 Supplemental Mode
(06h)

- **491 サプリメンタルモードを有効にする**



Enable 491 Supplemental Mode
(08h)

- **スマートサプリメントモードを有効にする**（前述したプレフィックスで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。）



Enable Smart Supplemental Mode
(03h)

- **ユーザが設定できるサプリメントタイプ 1**

- ユーザが定義した 3 桁のプレフィックスで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。この 3 桁のプレフィックスは、「ユーザが設定できるサプリメント」を使用して設定します。



Supplemental User-Programmable Type 1
(09h)

- ・ **ユーザが設定できるサブリメンタルタイプ 1 および 2**

- ユーザが定義した 2 つある 3 桁のプレフィックスのいずれかで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。この 3 桁のプレフィックスは、「ユーザが設定できるサブリメンタル」を使用して設定します。



**Supplemental User-Programmable Type 1 and 2
(0Ah)**

- ・ **ユーザが設定できるスマートサブリメンタルプラス 1**

- 前述したプレフィックス、または「ユーザが設定できるサブリメンタル」を使用してユーザが定義したプレフィックスで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。



**Smart Supplemental Plus User-Programmable 1
(0Bh)**

- ・ **ユーザが設定できるスマートサブリメンタルプラス 1 および 2**

- 前述したプレフィックス、または「ユーザが設定できるサブリメンタル」を使用してユーザが定義した 2 つのプレフィックスのいずれかで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。



**Smart Supplemental Plus User-Programmable 1 and 2
(0Ch)**

(注意) 誤読のリスクを避けるために、サブリメンタルコードを読みとるか、読みとらないかを設定しておくことをお勧めします。

ユーザーが設定できるサブリメンタル [User-Programmable Supplementals]

「UPC/EAN/JAN サブリメンタルの読み取り」でユーザーが設定できるサブリメンタルオプションのいずれかを選択した場合、次のように 3 桁のプレフィックスを設定します。

1 つの 3 桁のプレフィックスを設定するには、「User-Programmable Supplemental 1」を選択します。続いて、[【補足情報：数字バーコード】](#)を使用して 3 桁を選択します。

2 つ目の 3 桁のプレフィックスを設定するには、「User-Programmable Supplemental 2」を選択します。続いて、[【補足：数字バーコード】](#)を使用して 3 桁を選択します。



User-Programmable Supplemental 1



User-Programmable Supplemental 2

UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り繰返回数[UPC/EAN/JAN Supplemental Redundancy]

「サプリメンタルコード付きUPC/EAN/JANを自動認識する」を設定した場合、サプリメンタルコードを指定した回数繰返し読み取ります。

設定範囲は、2～30 回までです。サプリメンタル付きとなしのタイプが混在している UPC/EAN/JAN シンボルを読み取る際には、5 回以上の値を設定することをお勧めします。

デフォルト値は 10 回です。読み取り繰返回数を設定するには、以下のバーコードをスキャンしてから、[【補足情報：数字バーコード】](#)から 2 つの数字を選択します。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったり、設定を変更したりする場合は、[【補足情報：数字バーコード】](#)の「キャンセル」をスキャンします。



UPC/EAN/JAN Supplemental Redundancy

JAN (UPC/EAN)の補足 AIM ID フォーマット

【補足情報：[AIM コード ID 表](#)】で選んだ文字をどのように付けるかどうかを選択します。

- 分割：AIM ID を分けるが、一つのコードとして送信
]E<0 or 4><data>]E<1 or 2>[supplemental data]



Separate
(00h)

- 結合：AIM ID を結合した文字列として送信
]E3<data+supplemental data>



*Combined
(01h)

- 分割送信：AIM ID を分ける
]E<0 or 4><data>
]E<1 or 2>[supplemental data]



Separate Transmissions
(02h)

UPC-A チェックディジット

チェックディジットを送信するかどうかを選択して下さい。

- ・ 送信する



*Transmit UPC-A Check Digit
(01h)

- ・ 送信しない



Do Not Transmit UPC-A Check Digit
(00h)

UPC-E チェックディジット

チェックディジットを送信するかどうかを選択して下さい。

- ・ 送信する



*Transmit UPC-E Check Digit
(01h)

- ・ 送信しない



Do Not Transmit UPC-E Check Digit
(00h)

UPC-E1 チェックディジット

チェックディジットを送信するかどうかを選択して下さい。

- ・ 送信する



*Transmit UPC-E1 Check Digit
(01h)

- ・ 送信しない



Do Not Transmit UPC-E1 Check Digit
(00h)

UPC-A プリアンブル

国番号やシステム文字を、UPC-A の一部として読みとることができます。

下記の中から選択して下さい。

- ・ なし



No Preamble (<DATA>)
(00h)

- ・ システム文字のみ



*System Character (<SYSTEM CHARACTER> <DATA>)
(01h)

- ・ 国番号とシステム文字



System Character & Country Code
(< COUNTRY CODE> <SYSTEM CHARACTER> <DATA>)
(02h)

UPC-E プリアンブル

国番号やシステム文字を、UPC-E の一部として読みとることができます。

下記の中から選択して下さい。

- ・ なし



No Preamble (<DATA>)
(00h)

- ・ システム文字のみ



*System Character (<SYSTEM CHARACTER> <DATA>)
(01h)

- ・ 国番号とシステム文字



System Character & Country Code
(< COUNTRY CODE> <SYSTEM CHARACTER> <DATA>)
(02h)

UPC-E1 プリアンブル

国番号やシステム文字を、UPC-E1 の一部として読みとることができます。

下記の中から選択して下さい。

- ・ なし



No Preamble (<DATA>)
(00h)

- ・ システム文字のみ



*System Character (<SYSTEM CHARACTER> <DATA>)
(01h)

- ・ 国番号とシステム文字



System Character & Country Code
(< COUNTRY CODE> <SYSTEM CHARACTER> <DATA>)
(02h)

UPC-E から、UPC-A への変換

UPC-E フォーマットから UPC-A フォーマットに、送信前に変換します。

- ・ 変換する



Convert UPC-E to UPC-A (Enable)
(01h)

- ・ 変換しない



*Do Not Convert UPC-E to UPC-A (Disable)
(00h)

UPC-E1 から、UPC-A への変換

UPC-E1 フォーマットから UPC-A フォーマットに、送信前に変換します。

- ・ 変換する



Convert UPC-E1 to UPC-A (Enable)
(01h)

- ・ 変換しない



*Do Not Convert UPC-E1 to UPC-A (Disable)
(00h)

EAN-8/JAN-8 ゼロ拡張

このパラメータが有効な場合は、EAN8 に 5 個のゼロをつけて EAN13 に対応するようにします。

- ・ 有効



Enable EAN/JAN Zero Extend
(01h)

- ・ 無効



*Disable EAN/JAN Zero Extend
(00h)

UCC クーポン拡張コード

UCC クーポン拡張コードは、UCC クーポンコードに隣接された追加バーコードです。有効にするかどうかは、下記のバーコードを選択して下さい。

- ・ 有効



Enable UCC Coupon Extended Code
(01h)

- ・ 無効



*Disable UCC Coupon Extended Code
(00h)

クーポンレポート

古典的クーポンシンボルは、UPC/EAN と CODE128 の2つのバーコードで構成されています。新しいクーポンシンボルは、一つの Databar 拡張バーコードで構成されています。下記のバーコードで、どちらを読むか、両方とも読むかを選択して下さい。

- ・ 古典的クーポンシンボル



**Old Coupon Symbols
(00h)**

- ・ 新しいクーポンシンボル



***New Coupon Symbols
(01h)**

- ・ 両方ともに読み取り



**Both Coupon Formats
(02h)**

UPC リデュースドクワイエットゾーン[UPC Reduced Quiet Zone]

次のバーコードのいずれかをスキャンして、クワイエットゾーン（バーコードの両側の余白）を減らした UPC バーコードのデコードを有効または無効にします。[有効にする]場合は、1D Quiet Zone Level を選択してください。



Enable UPC Reduced Quiet Zone

(1)



*Disable UPC Reduced Quiet Zone

(0)

ISSN EAN

読み込み可能か選択します。

- ・ 有効



Enable ISSN EAN
(01h)

- ・ 無効



*Disable ISSN EAN
(00h)

■ Code128

Code128 の有効無効

読み込み可能か選択します。

- ・ 有効



*Enable Code 128
(01h)

- ・ 無効



Disable Code 128
(00h)

Code128 の長さの選択

コードの長さは、チェックディジットも含んだ文字（人間が読める文字）数によります。

Code128 の長さは、①1 つの個別の長さ、②2 つの個別の長さ、③特定のレンジの長さ、あるいは、④様々な長さをセットできます。

（注意）異なる長さのバーコードをセットする場合は、最初にゼロをいれて下さい。

① 1 つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、Code128 のシンボルは、1 つの特定の長さになります。Z-6 ページの【[補足情報：数字バーコード](#)】から、数字を選択して下さい。

例えば、14 桁の Code128 のシンボルにしたい場合は、[Code-128 One Discrete Length]を選択し、次に、[1]、[4]をスキャンして下さい。



Code 128 - One Discrete Length

②2つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、2つの長さの Code128 を読みとることができます。

Z-6 ページの【[補足情報：数字バーコード](#)】から、数字を選択して下さい。

例えば、2桁か、14桁の Code128 だけを読み取りたい場合、[Code-128 Two Discrete Lengths] を選択し、[0]、[2]、[1]、[4]を選択して下さい。



Code 128 - Two Discrete Lengths

③特定のレンジの長さ

このオプションを選んだ場合、特定のレンジの間の長さを読みとることができます。

Z-6 ページの【[補足情報：数字バーコード](#)】から、数字を選択して下さい。

例えば、4桁～12桁の Code128 を読み取りたい場合、[Code-128 Length Within Range]を選択し、[0]、[4]、[1]、[2]を選択して下さい。



Code 128 - Length Within Range

④様々な長さ

このオプションを選択した場合、どのような長さの Code128 も読みとることができます。



*Code 128 - Any Length

GS1-128 (元 UCC/EAN-128) の有効無効

読み込み可能か選択します。

- ・ 有効



*Enable GS1-128
(01h)

- ・ 無効



Disable GS1-128
(00h)

ISBT128 の有効無効

読み込み可能か選択します。

- ・ 有効



*Enable ISBT 128
(01h)

- ・ 無効



Disable ISBT 128
(00h)

ISBT の連結

ISBT コードタイプを連結するオプションを選択します。

- ・ 無効：検出された ISBT コードは連結されません。



*Disable ISBT Concatenation
(00h)

- ・ 有効： ISBT コードを読み取り、連結するには、ISBT コードが 2 つ以上必要です。単一の ISBT シンボルを読み取ることはできません。



Enable ISBT Concatenation
(01h)

- ・ 自動選択モード： ISBT コードが読み取られ、連結されます。ISBT シンボルが 1 つしかない場合、[「ISBT 連結の読み取り繰返回数」](#)の手順で設定した回数分シンボルを読み取ってから、そのデータを転送して、他に ISBT シンボルがないことを確認します。



Autodiscriminate ISBT Concatenation
(02h)

ISBT テーブルのチェック

ISBT 仕様は、一般的にペアで使われる ISBT バーコードが並んだテーブルを含みます。連結 ISBT を有効にした場合、ISBT テーブルチェックは、テーブル内で見つかったペアについてのみ連結します。その他の ISBT コードは連結されません。

- ・ 有効



* Enable Check ISBT Table
(01h)

- ・ 無効



Disable Check ISBT Table
(00h)

ISBT 連結の読み取り繰返回数

「ISBT の連結」で「自動識別」に設定した場合は、このパラメータを使って、ISBT の読み取りが行われる回数を設定します。この回数に達すると、他にシンボルが存在しないと判断されます。

この回数を設定するには、以下のバーコードをスキャンし、【[補足情報：数字バーコード](#)】のバーコードを 2 つスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったり、選択した設定を変更したりする場合は、「キャンセル」をスキャンします。デフォルトは 10 です。



ISBT Concatenation Redundancy

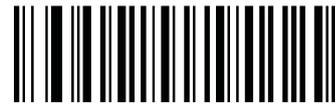
Code 128 <FNC4>

この機能は、<FNC4>が埋め込まれた Code 128 バーコードに適用されます。デコードデータから <FNC4>を取り除くために、[Ignore Code 128 <FNC4>]を選択します。残りのデータは変更されずにホストに送信されます。無効にすると、<FNC4>は、Code 128 標準に従って通常どおり処理されます。



***Honor Code 128 <FNC4>**

(0)



Ignore Code 128 <FNC4>

(1)

Code 128 セキュリティレベル[Code 128 Security Level]

Code 128 バーコードは、特に Code 128 Lengths が Any Length に設定されている場合、誤読が起きやすいです。そのため、Code 128 バーコードに対して 4 つのデコードセキュリティレベルが設けられています。セキュリティレベルと読取やすさは反比例の関係にあり、セキュリティレベルを上げれば上げるほど、読取にくくなります。そのため、必要に応じてセキュリティレベルを選択する必要があります。

レベル 0 - デコーダーは最も読みやすい状態で動作し、ほとんどの規格内バーコードの読取に十分なセキュリティを提供します。

レベル 1 - このオプションは、妥当な読みやすさを維持しながら、ほとんどの誤読を排除します。このオプションがデフォルト設定になります。

レベル 2 - セキュリティレベル 1 で誤読を排除できなかった場合、このオプションでより厳しいセキュリティ要件が適用されます。

レベル 3 - セキュリティレベル 2 を選択しても誤読が発生した場合は、このオプションで最も厳しいセキュリティ要件を適用させます。

注意 このオプションは、誤読に対する非常手段であり、これを選択すると、デコーダーの解読能力が著しく損なわれます。このレベルのセキュリティが必要な場合は、バーコードの品質を改善してみてください。



Code 128 Security Level 0

(0)



*Code 128 Security Level 1

(1)



Code 128 Security Level 2

(2)



Code 128 Security Level 3

(3)



Code 128 リデュースクワイエットゾーン[Code 128 Reduced Quiet Zone]

次のバーコードのいずれかをスキャンして、クワイエットゾーン（バーコードの両側の余白）を減らした Code 128 バーコードのデコードを有効または無効にします。有効に設定した場合は、1D Quiet Zone Level を選択してください。



Enable Code 128 Reduced Quiet Zone

(1)



*Disable Code 128 Reduced Quiet Zone

(0)

■ Code39

Code39 の有効無効

読み込み可能か選択します。

- ・ 有効



*Enable Code 39
(01h)

- ・ 無効



Disable Code 39
(00h)

Trioptic Code39 の有効無効

Code39 のコンピュータテープのカートリッジのための特殊バーコードで、常に6文字のコードです。読み込み可能か選択します。

- ・ 有効



Enable Trioptic Code 39
(01h)

- ・ 無効



*Disable Trioptic Code 39
(00h)

注意：

Code39 と、Trioptic Code39 は、同時に有効にできません。

Code39 から Code32 への変換（イタリアンファーマコード）

Code 32 は、イタリアの製薬業界で使用されている Code39 の変形です。以下の適切なバーコードをスキャンして、Code39 から Code32 への変換を有効または無効にします。

（注意）このパラメータを機能させるには、Code39 を有効にして下さい。

- ・ 有効



Enable Convert Code 39 to Code 32
(01h)

- ・ 無効



*Disable Convert Code 39 to Code 32
(00h)

Code32 プレフィックス

このパラメータを有効にすると、すべての Code32 バーコードに対して、プレフィックス「A」を付けます。
[Code39 から Code32 への変換]を有効にして下さい。

- ・ 有効



Enable Code 32 Prefix
(01h)

- ・ 無効



*Disable Code 32 Prefix
(00h)

Code39 の長さ設定

コードの長さは、チェックディジットも含んだ文字（人間が読める文字）数によります。

Code39 の長さは、①1 つの個別の長さ、②2 つの個別の長さ、③特定のレンジの長さ、あるいは、④様々な長さをセットできます。

（注意）異なる長さのバーコードをセットする場合は、最初にゼロをいれて下さい。

①1 つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、Code39 のシンボルは、1 つの特定の長さになります。[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、14桁の Code39 のシンボルにしたい場合は、[Code-39 One Discrete Length]を選択し、次に、[【補足情報：数字バーコード】](#)から[1]、[4]をスキャンして下さい。



Code 39 - One Discrete Length

②2 つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、2 つの長さの Code39 を読みとることができます。

[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、2桁か、14桁の Code39 だけを読みとりたい場合、[Code-39 Two Discrete Lengths]を選択し、[【補足情報：数字バーコード】](#)[0]、[2]、[1]、[4]を選択して下さい。



Code 39 - Two Discrete Lengths

③特定のレンジの長さ

このオプションを選んだ場合、特定のレンジの間の長さを読みとることができます。

【[補足情報：数字バーコード](#)】から、数字を選択して下さい。

例えば、4桁～12桁のCode39を読み取りたい場合、[Code-39 Length Within Renge]を選択し、

【[補足情報：数字バーコード](#)】から[0]、[4]、[1]、[2]を選択して下さい。



*Code 39 - Length Within Range

④様々な長さ

このオプションを選択した場合、どのような長さのCode39も読みとることができます。



Code 39 - Any Length

Code39 チェックディジットの検証

Code39 のアルゴリズムで、チェックディジットが正しいかを検証するかどうかを選択して下さい。Code39 にモジュール 43 チェックディジットが含まれている場合に有効です。

- ・ 検証する



Enable Code 39 Check Digit
(01h)

- ・ 検証しない



*Disable Code 39 Check Digit
(00h)

Code39 チェックディジットの転送

チェックディジットを転送するかしないかを選択して下さい。

- ・ 送信する



Transmit Code 39 Check Digit (Enable)
(01h)

- ・ 送信しない



*Do Not Transmit Code 39 Check Digit (Disable)
(00h)

(注意) チェックディジットが有効になっている場合のみ有効です。

Code39 Full ASCII の有効無効

Code39 Full ASCII は、Full ASCII 文字をエンコードするための 2 つの文字の Code39 の変異体です。

- ・ 有効



Enable Code 39 Full ASCII
(01h)

- ・ 無効



*Disable Code 39 Full ASCII
(00h)

注意：

Code39 Full ASCII と、Trioptic Code39 は、同時に有効にできません。

Code39 セキュリティレベル[Code 39 Security Level]

Code39 のバーコードに対して 4 つのセキュリティレベルが設けられています。セキュリティレベルと読取やすさは反比例の関係にあるため、必要に応じて適切なレベルを選択する必要があります。

●**レベル 0** - デコーダーは最も読取やすい状態で動作し、規格内バーコードであれば、それらのほとんどに十分な精度を提供します。



Code 39 Security Level 0

(0)

●**レベル 1** - このオプションはデフォルト設定であり、ほとんどの誤読を排除します。



*Code 39 Security Level 1

(1)

●**レベル 2** - レベル 1 で誤読を排除できなかった場合、このオプションでより厳しいセキュリティ要件が適用されます。



Code 39 Security Level 2

(2)

●**レベル 3** - レベル 2 を選択しても誤読が発生する場合は、このレベルを選択して、最も厳しいセキュリティ要件を適用させます。



Code 39 Security Level 3

(3)

注意 このオプションは、誤読に対する非常手段であり、これを選択すると、デコーダーの解読能力が著しく損なわれます。このレベルのセキュリティが必要な場合は、バーコードの品質を改善してみてください。

Code 39 リデュースドクワイエットゾーン[Code 39 Reduced Quiet Zone]

次のバーコードのいずれかをスキャンして、クワイエットゾーン（バーコードの両側の余白）を減らした Code39 バーコードのデコードを有効または無効にします。有効に設定した場合は、1D Quiet Zone Level を選択して下さい。



Enable Code 39 Reduced Quiet Zone

(1)



*Disable Code 39 Reduced Quiet Zone

(0)

■ Code93

Code93 の有効無効

読み込み可能か選択します。

- ・ 有効



*Enable Code 93[←]
(1)[←]

- ・ 無効



Disable Code 93[←]
(0)[←]

Code93 の長さ設定

コードの長さは、チェックディジットも含んだ文字（人間が読める文字）数によります。

Code93 の長さは、①1 つの個別の長さ、②2 つの個別の長さ、③特定のレンジの長さ、あるいは、④様々な長さをセットできます。

（注意）異なる長さのバーコードをセットする場合は、最初にゼロをいれて下さい。

① 1 つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、Code93 のシンボルは、1 つの特定の長さになります。[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、14 桁の Code93 のシンボルにしたい場合は、[Code-93 One Discrete Length]を選択し、次に、[【補足情報：数字バーコード】](#)の[1]、[4]をスキャンして下さい。



Code 93 - One Discrete Length

② 2 つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、2 つの長さの Code93 を読みとることができます。

[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、2 桁か、14 桁の Code93 だけを読みとりたい場合、[Code-93 Two Discrete Lengths]を選択し、[【補足情報：数字バーコード】](#)の[0]、[2]、[1]、[4]を選択して下さい。



Code 93 - Two Discrete Lengths

③特定のレンジの長さ

このオプションを選んだ場合、特定のレンジの間の長さを読みとることができます。

【[補足情報：数字バーコード](#)】から、数字を選択して下さい。

例えば、4桁～12桁のCode93を読み取りたい場合、[Code-93 Length Within Range]を選択し、

【[補足情報：数字バーコード](#)】の[0]、[4]、[1]、[2]を選択して下さい。



*Code 93 - Length Within Range

④様々な長さ

このオプションを選択した場合、どのような長さのCode93も読みとることができます。



Code 93 - Any Length

■ Code11

Code11 の有効無効

読み込み可能か選択します。

- ・ 有効



Enable Code 11
(01h)

- ・ 無効



*Disable Code 11
(00h)

Code11 の長さ設定

コードの長さは、チェックディジットも含んだ文字（人間が読める文字）数によります。

Code11 の長さは、①1 つの個別の長さ、②2 つの個別の長さ、③特定のレンジの長さ、あるいは、④様々な長さをセットできます。

（注意）異なる長さのバーコードをセットする場合は、最初にゼロをいれて下さい。

① 1 つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、Code11 のシンボルは、11 つの特定の長さになります。[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、14桁の Code11 のシンボルにしたい場合は、[Code-11 One Discrete Length]を選択し、次に、[【補足情報：数字バーコード】](#)の[1]、[4]をスキャンして下さい。



Code 11 - One Discrete Length

② 2 つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、2 つの長さの Code93 を読みとることができます。

[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、2桁か、14桁の Code11 だけを読みとりたい場合、[Code-11 Two Discrete Lengths]を選択し、[【補足情報：数字バーコード】](#)の[0]、[2]、[1]、[4]を選択して下さい。



Code 11 - Two Discrete Lengths

③特定のレンジの長さ

このオプションを選んだ場合、特定のレンジの間の長さを読みとることができます。

[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、4桁～12桁のCode11を読み取りたい場合、[Code-11 Length Within Renge]を選択し、[0]、[4]、[1]、[2]を選択して下さい。



*Code 11 - Length Within Range

④様々な長さ

このオプションを選択した場合、どのような長さのCode11も読みとることができます。



Code 11 - Any Length

Code11 チェックディジットの整合性

Code11 のアルゴリズムで、チェックディジットが正しいかどうかを検証するかどうかを選択して下さい。
このオプションは、1 つのチェックディジット、2 つのチェックディジットをするか、無効にするかを選択して下さい。

- 無効



*Disable
(00h)

- 1 つのチェックディジット



One Check Digit
(01h)

- 2 つのチェックディジット



Two Check Digits
(02h)

Code11 チェックディジットの転送

チェックディジットを転送するかしないかを選択して下さい。

- ・ 送信する



Transmit Code 11 Check Digit(s) (Enable)
(01h)

- ・ 送信しない



*Do Not Transmit Code 11 Check Digit(s) (Disable)
(00h)

(注意) チェックディジットが有効になっている場合のみ有効です。

■ Interleaved 2 of 5 (ITF)

Interleaved 2 of 5 の有効無効

読み込み可能か選択します。

- ・ 有効



*Enable Interleaved 2 of 5[←]
(1)[←]

- ・ 無効



Disable Interleaved 2 of 5[←]
(0)[←]

Interleaved 2 of 5 の長さ設定

コードの長さは、チェックディジットも含んだ文字（人間が読める文字）数によります。

Interleaved 2 of 5 の長さは、①1つの個別の長さ、②2つの個別の長さ、③特定のレンジの長さ、あるいは、④様々な長さをセットできます。

（注意）異なる長さのバーコードをセットする場合は、最初にゼロをいれて下さい。

① 1つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、Interleaved 2 of 5 のシンボルは、1つの特定の長さになります。[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、14桁の Interleaved 2 of 5 のシンボルにしたい場合は、[I 2 of 5 - One Discrete Length]を選択し、次に、[【補足情報：数字バーコード】](#)の[1]、[4]をスキャンして下さい。



I 2 of 5 - One Discrete Length

② 2つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、2つの長さの Interleaved 2 of 5 を読みとることができます。

[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、2桁か、14桁の Interleaved 2 of 5 だけを読みとりたい場合、[I 2 of 5 - Two Discrete Lengths]を選択し、[【補足情報：数字バーコード】](#)の[0]、[2]、[1]、[4]を選択して下さい。



I 2 of 5 - Two Discrete Lengths

③特定のレンジの長さ

このオプションを選んだ場合、特定のレンジの間の長さを読みとることができます。

【[補足情報：数字バーコード](#)】から、数字を選択して下さい。

例えば、4桁～12桁の Interleaved 2 of 5 を読みとりたい場合、[I 2 of 5 - Length Within Range]を選択し、【[補足情報：数字バーコード](#)】の[0]、[4]、[1]、[2]を選択して下さい。



④様々な長さ

このオプションを選択した場合、どのような長さの Interleaved 2 of 5 も読みとることができます。



(注意) 様々な長さを読むようにすると、誤読をする可能性があります。

Interleaved 2 of 5 チェックディジットの整合性

USS または、OPCC のいずれかのアルゴリズムでコンパイルされているかチェックします。

- ・ 無効



*Disable
(00h)

- ・ USS



USS Check Digit
(01h)

- ・ OPCC



OPCC Check Digit
(02h)

Interleaved 2 of 5 チェックディジットの転送

チェックディジットを転送するかしないかを選択して下さい。

- ・ 送信する



Transmit I 2 of 5 Check Digit (Enable)
(01h)

- ・ 送信しない



*Do Not Transmit I 2 of 5 Check Digit (Disable)
(00h)

フェブラバン[Febraban]

Febraban は、長さ 44 の Interleaved 2 of 5 バーコードであり、送信されるデータストリームに特別なチェック文字を挿入する必要があります。有効にすると、Interleaved 2 of 5 内部チェックディジットの計算と送信が無効になります。無効にすると、Interleaved 2 of 5 のすべての機能が通常どおり機能します。

長さ設定の推奨事項

Interleaved 2 of 5 長さ 1 : 固定長と FEBRABAN 長の大きい方(==44).

Interleaved 2 of 5 長さ 2 : 固定長と FEBRABAN 長の小さい方(==44).



Enable Febraban

(1)



***Disable Febraban**

(0)

Interleaved 2 of 5 から EAN-13 への変換

このパラメータは、14 桁の Interleaved 2 of 5 を EAN-13 へ変換します。変換するためには、Interleaved 2 of 5 を有効にすること、桁数を 14 桁にすること、初期文字がゼロであり有効な EAN-13 のチェックディジットであることが必要です。

- ・ 変換する



Convert I 2 of 5 to EAN-13 (Enable)
(01h)

- ・ 変換しない



*Do Not Convert I 2 of 5 to EAN-13 (Disable)
(00h)

I 2 of 5 の読み取り精度レベル [I 2 of 5 Security Level]

Interleaved 2 of 5 のバーコードに対して 4 種類の読み取り精度レベルを設定することができます。バーコード品質レベルの低下に応じて、読み取り精度レベルを上げます。読み取り精度とスキャナの読み取り速度は反比例するため、指定されたアプリケーションに必要な読み取り精度レベルだけを選択してください。

レベル 0

この設定では、スキャナはその性能を最大限に発揮できる状態で動作しつつ、大半の「規格内」のバーコードを読み取るために十分な読み取り精度を確保できます。

レベル 1

これはデフォルト設定です。Interleaved 2 of 5 バーコードを読み取る際、「2 度読み一致」を行います。

レベル 2

Interleaved 2 of 5 バーコードを読み取る際、「3 度読み一致」を行います。

レベル 3

Interleaved 2 of 5 バーコードを読み取る際、「4 度読み一致」を行います。

注意 このオプションを選択するのは、誤解読に対する厳しく仕様バーコードからの非常手段です。このレベルのセキュリティを選択すると、デコーダーの解読能力はかなり損なわれます。このレベルのセキュリティを必要とするなら、バーコードの品質を向上させるようにしてください。



**I 2 of 5 Security Level 0
(00h)**



***I 2 of 5 Security Level 1
(01h)**



**I 2 of 5 Security Level 2
(02h)**



**I 2 of 5 Security Level 3
(03h)**

I 2 of 5 リデュースドクワイエットゾーン[I 2 of 5 Reduced Quiet Zone] (ASR-020D-V2/ASR-020D-V3)

次のバーコードのいずれかをスキャンして、クワイエットゾーン（バーコードの両側の余白）を減らした Interleaved 2 of 5 バーコードのデコードを有効または無効にします。有効に設定した場合は、1D Quiet Zone Level を選択してください。



Enable I 2 of 5 Reduced Quiet Zone

(1)



*Disable I 2 of 5 Reduced Quiet Zone

(0)

Discrete 2 of 5 (DTF)

Discrete 2 of 5 の有効無効

読み込み可能か選択します。

- ・ 有効



Enable Discrete 2 of 5
(01h)

- ・ 無効



*Disable Discrete 2 of 5
(00h)

Discrete 2 of 5 の長さ設定

コードの長さは、チェックディジットも含んだ文字（人間が読める文字）数によります。桁数の範囲は 0～55 になります。

Discrete 2 of 5 の長さは、①1 つの個別の長さ、②2 つの個別の長さ、③特定のレンジの長さ、あるいは、④様々な長さをセットできます。

（注意）異なる長さのバーコードをセットする場合は、最初にゼロをいれて下さい。

①1 つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、Discrete 2 of 5 のシンボルは、1 つの特定の長さになります。【[補足情報：数字バーコード](#)】から、数字を選択して下さい。

例えば、14 桁の Discrete 2 of 5 のシンボルにしたい場合は、[D 2 of 5 - One Discrete Length] を選択し、次に、【[補足情報：数字バーコード](#)】の[1]、[4]をスキャンして下さい。



D 2 of 5 - One Discrete Length

②2 つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、2 つの長さの Discrete 2 of 5 を読みとることができます。

【[補足情報：数字バーコード](#)】から、数字を選択して下さい。

例えば、2 桁か、14 桁の Discrete 2 of 5 だけを読みとりたい場合、[D 2 of 5 - Two Discrete Lengths]を選択し、【[補足情報：数字バーコード](#)】の[0]、[2]、[1]、[4]を選択して下さい。



D 2 of 5 - Two Discrete Lengths

③特定のレンジの長さ

このオプションを選んだ場合、特定のレンジの間の長さを読みとることができます。

【[補足情報：数字バーコード](#)】から、数字を選択して下さい。

例えば、4桁～12桁の Discrete 2 of 5 を読みとりたい場合、[D 2 of 5 - Length Within Range] を選択し、【[補足情報：数字バーコード](#)】の[0]、[4]、[1]、[2]を選択して下さい。



*D 2 of 5 - Length Within Range

④様々な長さ

このオプションを選択した場合、どのような長さの Discrete 2 of 5 も読みとることができます。



D 2 of 5 - Any Length

(注意) 様々な長さを読むようにすると、誤読をする可能性があります。

■ NW7 (Codabar)

NW7 (Codabar)の有効無効

読み込み可能か選択します。

- ・ 有効



*Enable Codabar
(1)[←]

- ・ 無効



Disable Codabar
(0)[←]

NW7 (Codabar)の長さ設定

コードの長さは、チェックディジットも含んだ文字（人間が読める文字）数によります。

Codabar の長さは、①1 つの個別の長さ、②2 つの個別の長さ、③特定のレンジの長さ、あるいは、④様々な長さをセットできます。

（注意）異なる長さのバーコードをセットする場合は、最初にゼロをいれて下さい。

① 1 つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、Codabar のシンボルは、1 つの特定の長さになります。[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、14 桁の Codabar のシンボルにしたい場合は、[Codabar - One Discrete Length]を選択し、次に、[【補足情報：数字バーコード】](#)の[1]、[4]をスキャンして下さい。



Codabar - One Discrete Length

② 2 つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、2 つの長さの Code93 を読みとることができます。

[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、2 桁か、14 桁の Codabar だけを読みとりたい場合、[Codabar - Two Discrete Lengths]を選択し、[【補足情報：数字バーコード】](#)の[0]、[2]、[1]、[4]を選択して下さい。



Codabar - Two Discrete Lengths

③特定のレンジの長さ

このオプションを選んだ場合、特定のレンジの間の長さを読みとることができます。

【[補足情報：数字バーコード](#)】から、数字を選択して下さい。

例えば、4桁～12桁のCodabarを読みとりたい場合、[Codabar - Length Within Renge]を選択し、【[補足情報：数字バーコード](#)】の[0]、[4]、[1]、[2]を選択して下さい。



*Codabar - Length Within Range

④様々な長さ

このオプションを選択した場合、どのような長さのCodabarも読みとることができます。



Codabar - Any Length

CLSI Editing

このパラメータは、最初と最後の文字をとって、14 桁の Codabar の 1 番最初の文字・5 番目の文字・10 番目の文字の後にスペースを入れます。

- ・ 有効



Enable CLSI Editing
(01h)

- ・ 無効



*Disable CLSI Editing
(00h)

NOTIS Editing

Codabar から最初と最後の文字をとります。

- ・ 有効



Enable NOTIS Editing
(01h)

- ・ 無効



*Disable NOTIS Editing
(00h)

Codabar のセキュリティレベル[Codabar Security Level]

Codabar のバーコードに対して 4 つのセキュリティレベルが設けられています。セキュリティレベルと読取やすさは反比例の関係にあるため、必要に応じて適切なレベルを選択する必要があります。

•**レベル 0** - デコーダーは最も読取やすい状態で動作し、規格内バーコードであれば、それらのほとんどに十分な精度を提供します。



Codabar Security Level 0

(0)

•**レベル 1** - このオプションはデフォルト設定であり、ほとんどの誤読を排除します。



*Codabar Security Level 1

(1)

•**レベル 2** - レベル 1 で誤読を排除できなかった場合は、このオプションでより厳しいセキュリティ要件が適用されます。



Codabar Security Level 2

(2)

●**レベル 3** - レベル 2 を選択しても誤読が発生した場合は、このレベルで最も厳しいセキュリティ要件を適用させます。



Codabar Security Level 3

(3)

注意 このオプションは、誤読に対する非常手段であり、これを選択すると、デコーダーの解読能力が著しく損なわれます。このレベルのセキュリティが必要な場合は、バーコードの品質を改善してみてください。

NW7 (Codabar)の最初と最後の文字の、大文字・小文字判別

- ・ 大文字



*Upper Case
(00h)

- ・ 小文字



Lower Case
(01h)

Codabar Mod16 チェックディジット検証[Codabar Mod 16 Check Digit Verification]

この機能を有効にして、Codabar Mod 16 チェックディジットを確認し、データが指定されたチェックディジットアルゴリズムに準拠していることを検証します。



Enable Codabar Mod 16 Check Digit

(1)



* Disable Codabar Mod 16 Check Digit

(0)

Codabar チェックディジットの転送[Transmit Codabar Check Digit]

次のバーコードのいずれかをスキャンして、Codabar チェックディジットを転送するかどうかを選択します。

注:このパラメータを機能させるには、*Codabar Mod16* チェックディジット検証を有効にする必要があります。



Enable Codabar Check Digit Transmission

(1)



*** Disable Codabar Check Digit Transmission**

(0)

■ MSI

MSI の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable MSI
(01h)

- ・ 無効



*Disable MSI
(00h)

MSI の長さ設定

コードの長さは、チェックディジットも含んだ文字（人間が読める文字）数によります。

MSI の長さは、①1つの個別の長さ、②2つの個別の長さ、③特定のレンジの長さ、あるいは、④様々な長さをセットできます。

（注意）異なる長さのバーコードをセットする場合は、最初にゼロをいれて下さい。

① 1つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、MSI のシンボルは、11つの特定の長さになります。[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、14桁のMSIのシンボルにしたい場合は、[MSI - One Discrete Length]を選択し、次に、[【補足情報：数字バーコード】](#)の[1]、[4]をスキャンして下さい。



MSI - One Discrete Length

② 2つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、2つの長さのMSIを読みとることができます。

[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、2桁か、14桁のMSIだけを読みとりたい場合、[MSI - Two Discrete Lengths]を選択し、[【補足情報：数字バーコード】](#)の[0]、[2]、[1]、[4]を選択して下さい。



MSI - Two Discrete Lengths

③ 特定のレンジの長さ

このオプションを選んだ場合、特定のレンジの間の長さを読みとることができます。

[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、4桁～12桁のMSIを読み取りたい場合、[MSI - Length Within Range]を選択し、[【補足情報：数字バーコード】](#)の[0]、[4]、[1]、[2]を選択して下さい。



*MSI - Length Within Range

④ 様々な長さ

このオプションを選択した場合、どのような長さのMSIも読みとることができます。



MSI - Any Length

(注意) 様々な長さを読むようにすると、誤読をする可能性があります。

MSI のチェックディジットの整合性

整合性を確認します。有効にするか、無効にするかを選択してください。

バーコードの最後にあるチェックディジットは、データの整合性をチェックします。チェックディジットは、自動で送ることはしません。

- 1つのチェックディジット



*One MSI Check Digit
(00h)

- 2つのチェックディジット



Two MSI Check Digits
(01h)

2つのチェックディジットを選択した場合、「MSI チェックディジットアルゴリズム」を選択して下さい。

MSI チェックディジットの転送

チェックディジットを転送するかしないかを選択して下さい。

- ・ 送信する



Transmit MSI Check Digit(s) (Enable)
(01h)

- ・ 送信しない



*Do Not Transmit MSI Check Digit(s) (Disable)
(00h)

(注意) チェックディジットが有効になっている場合のみ有効です。

MSI チェックディジットアルゴリズム

2 つのチェックディジットを選択した場合、追加の検証が要求されます。下記の内、いずれかを選択して下さい。



MOD 10/MOD 11
(00h)

MSI リデュースドクワイエットゾーン[MSI Reduced Quiet Zone]

次のバーコードのいずれかをスキャンして、クワイエットゾーンを減らした MSI バーコードのデコードを有効または無効にします。有効に設定した場合は、1D Quiet Zone Level を選択してください。



***Disable MSI Reduced Quiet Zone**

(0)



Enable MSI Reduced Quiet Zone

(1)

■ Chinese 2 of 5

Chinese 2 of 5 の有効無効

読み込み可能か選択します。

- ・ 有効



Enable Chinese 2 of 5
(01h)

- ・ 無効



*Disable Chinese 2 of 5
(00h)

■ Matrix 2 of 5

Matrix 2 of 5 の有効無効

読み込み可能か選択します。

- ・ 有効



Enable Matrix 2 of 5
(01h)

- ・ 無効



*Disable Matrix 2 of 5
(00h)

Matrix 2 of 5 の長さ設定

コードの長さは、チェックディジットも含んだ文字（人間が読める文字）数によります。

Matrix 2 of 5 の長さは、①1つの個別の長さ、②2つの個別の長さ、③特定のレンジの長さ、あるいは、④様々な長さをセットできます。

（注意）異なる長さのバーコードをセットする場合は、最初にゼロをいれて下さい。

① 1つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、Matrix 2 of 5 のシンボルは、1つの特定の長さになります。[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、14桁の Matrix 2 of 5 のシンボルにしたい場合は、[Matrix 2 of 5 - One Discrete Length]を選択し、次に、[【補足情報：数字バーコード】](#)の[1]、[4]をスキャンして下さい。



Matrix 2 of 5 - One Discrete Length

② 2つの個別の長さ

このオプションを選んだ場合、2つの長さの Matrix 2 of 5 を読みとることができます。

[【補足情報：数字バーコード】](#)から、数字を選択して下さい。

例えば、2桁か、14桁の Matrix 2 of 5 だけを読みとりたい場合、[Matrix 2 of 5 - Two Discrete Lengths]を選択し、[【補足情報：数字バーコード】](#)の[0]、[2]、[1]、[4]を選択して下さい。



Matrix 2 of 5 - Two Discrete Lengths

③ 特定のレンジの長さ

このオプションを選んだ場合、特定のレンジの間の長さを読みとることができます。

【[補足情報：数字バーコード](#)】から、数字を選択して下さい。

例えば、4桁～14桁の Matrix 2 of 5 を読みとりたい場合、[Matrix 2 of 5 - Length Within Range]を選択し、【[補足情報：数字バーコード](#)】の[0]、[4]、[1]、[2]を選択して下さい。



*Matrix 2 of 5 - Length Within Range←

④ 様々な長さ

このオプションを選択した場合、どのような長さの Matrix 2 of 5 も読みとることができます。



Matrix 2 of 5 - Any Length

Matrix 2 of 5 のチェックディジットの整合性

整合性を確認します。有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable Matrix 2 of 5 Check Digit
(01h)

- ・ 無効



*Disable Matrix 2 of 5 Check Digit
(00h)

Matrix 2 of 5 の転送

チェックディジットを転送するかしないかを選択して下さい。

- ・ 送信する



Transmit Matrix 2 of 5 Check Digit
(01h)

- ・ 送信しない



*Do Not Transmit Matrix 2 of 5 Check Digit
(00h)

(注意) チェックディジットが有効になっている場合のみ設定可能です。

■ Korean 3 of 5

Korean 3 of 5 の有効無効

読み込み可能か選択します。Korean 3 of 5 の長さが6桁に固定しています。

- ・ 有効



Enable Korean 3 of 5
(01h)

- ・ 無効



*Disable Korean 3 of 5
(00h)

■反転 1Dコード

反転 1Dコード [Inverse 1D]

このパラメータは、反転 1D バーコードの読み取りを設定します。

- **標準** – 標準 1D バーコードのみが読み取られます。
- **反転のみ** – 反転 1D バーコードのみが読み取られます。
- **反転の自動検出** – 標準と反転の両方の 1D バーコードが読み取られます。

- 標準



*Regular
(00h)

- 反転のみ



Inverse Only
(01h)

- 反転の自動検出（両方とも読みます）



Inverse Autodetect
(02h)

■郵便コード

US Postnet の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable US Postnet
(01h)

- ・ 無効



*Disable US Postnet
(00h)

US Planet の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable US Planet
(01h)

- ・ 無効



*Disable US Planet
(00h)

US Postal チェックディジットの転送

チェックディジットを転送するかしないかを選択してください。

- ・ 送信する



*Transmit US Postal Check Digit
(01h)

- ・ 送信しない



Do Not Transmit US Postal Check Digit
(00h)

UK Postal の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable UK Postal
(01h)

- ・ 無効



*Disable UK Postal
(00h)

UK Postal のチェックディジットの転送

チェックディジットを転送するかしないかを選択してください。

- ・ 送信する



*Transmit UK Postal
Check Digit
(01h)

- ・ 送信しない



Do Not Transmit UK Postal Check Digit
(00h)

Japan Postal の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable Japan Postal
(01h)

- ・ 無効



*Disable Japan Postal
(00h)

Australia Post の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable Australia Post
(01h)

- ・ 無効



*Disable Australia Post
(00h)

Australia Post フォーマット

Australia Post のフォーマットを選択します。

自動識別 (スマートモード) :

N と C のコード表を使用して、顧客情報フィールドを読み取ります。



*Autodiscriminate
(00h)

未処理フォーマット :

未処理のバーコードパターンを 0 から 3 の一連の数字として出力します。



Raw Format
(01h)

アルファベットのコード化 :

C のコード表を使用して、顧客情報フィールドを読み取ります。



Alphanumeric Encoding
(02h)

数字のコード化 :

N のコード表を使用して、顧客情報フィールドを読み取ります。



Numeric Encoding
(03h)

Netherlands KIX Code の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable Netherlands KIX Code
(01h)

- ・ 無効



*Disable Netherlands KIX Code
(00h)

USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



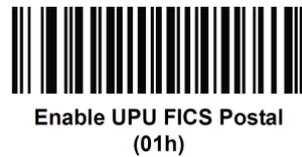
- ・ 無効



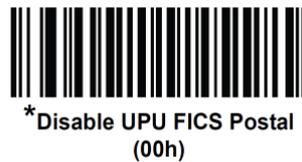
UPU FICS Postal の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



- ・ 無効



Mailmark の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。



***Disable Mailmark**

(0)



Enable Mailmark

(1)

■ GS1 DataBar

GS1 DataBar Omnidirectional の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



*Enable GS1 DataBar
(01h)

- ・ 無効



Disable GS1 DataBar
(00h)

GS1 DataBar Limited の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



*Enable GS1 DataBar Limited
(1)[Ⓔ]

- ・ 無効



Disable GS1 DataBar Limited
(0)[Ⓔ]

GS1 DataBar Limited セキュリティレベル



GS1 DataBar Security Level 0
(0)^㉔



***GS1 DataBar Security Level 1**
(1)^㉔



GS1 DataBar Security Level 2
(2)^㉔



GS1 DataBar Security Level 3
(3)^㉔

GS1 DataBar Expanded の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



*Enable GS1 DataBar Expanded
(01h)

- ・ 無効



Disable GS1 DataBar Expanded
(00h)

GS1 DataBar から JAN(UPC/EAN)への変換

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



- ・ 無効



GS1 DataBar セキュリティレベル

GS1 DataBar (GS1 DataBar Omnidirectional, GS1 DataBar Limited, GS1 DataBar Expanded) バーコードに対して 4 つのデコードセキュリティレベルが設けられています。

レベル 0 - デコーダーは最も読取やすい状態で動作し、規格内バーコードであれば、それらのほとんどに十分な精度を提供します。



レベル 1 - このオプションはデフォルト設定であり、ほとんどの誤読を排除します。



***GS1 DataBar Security Level 1**

(1)

レベル 2 - レベル 1 で誤読を排除できなかった場合は、このオプションでより厳しいセキュリティ要件が適用されます。



GS1 DataBar Security Level 2

(2)

レベル 3 - レベル 2 を選択しても誤読が発生した場合は、このレベルで最も厳しいセキュリティ要件を適用させます。



GS1 DataBar Security Level 3

(3)

■ Composite

Composite CC-C の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable CC-C
(01h)

- ・ 無効



*Disable CC-C
(00h)

Composite CC-A/B の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable CC-A/B
(01h)

- ・ 無効



*Disable CC-A/B
(00h)

Composite TLC-39 の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable TLC39
(01h)

- ・ 無効



*Disable TLC39
(00h)

Composite Inverse

通常または白黒反転したバーコードの読取について設定をします。この設定は、CCAB と組み合わせた DataBar を含む Composite Inverse のみを対象とし、他の 1D / 2D の組み合わせは対象外になります。

このパラメータを機能させるには、最初に Composite CC-A / B を有効にしてください。

•**Regular Only** – 通常の Composite バーコードのみを読み取ります。設定前に、Inverse1D を Regular Only または Inverse Autodetect に設定してください。

•**Inverse Only** – 白黒反転した Composite バーコードのみを読み取ります。設定前に、Inverse1D を Inverse Only または Inverse Autodetect に設定してください。



*Regular Only
(0)



Inverse Only
(1)

UPC Composite モード

UPC バーコードは、2D バーコードと「リンク」して、1 つのバーコードとして送信できます。「Composite CC-A/B」を有効にした場合は、次のいずれかを選択します。

UPC をリンクしない :

を選択した場合、2D バーコードを検出したかどうかに関係なく、UPC バーコードを送信します。



***UPC Never Linked**
(0)[←]

UPC を常にリンクする :

UPC バーコードと 2D 部分を転送します。2D が存在しない場合、UPC バーコードは転送されません。



UPC Always Linked
(1)[←]

UPC コンポジットを自動認識する :

2D 部分があるかどうかを判別してから、UPC 部分と 2D 部分（ある場合）を転送します。



Autodiscriminate UPC Composites
(2)[←]

Composite ビープモード

Composite バーコードの読み取りの際に、ビープ音を何回鳴らすかを設定します。

読み取り後にビープ音が 1 回鳴る :



Single Beep After Both are Decoded
(00h)

各パーツが読み取られるたびに鳴る :



* Beep as Each Code Type is Decoded
(01h)

読み取り後にビープ音が 2 回鳴る :



Double Beep After Both are Decoded
(02h)

UCC/EAN Composite コードの GS1-128 エミュレーションモード

UCC/EAN Composite コードの GS1-128 エミュレーションモードを設定します。

- ・ 有効



- ・ 無効



■ 2Dコード

PDF417 の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



*Enable PDF417
(01h)

- ・ 無効



Disable PDF417
(00h)

MicroPDF417 の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable MicroPDF417
(01h)

- ・ 無効



*Disable MicroPDF417
(00h)

Code 128 Emulation

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable Code 128 Emulation
(01h)

- ・ 無効



*Disable Code 128 Emulation
(00h)

Data Matrix の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



*Enable Data Matrix
(01h)

- ・ 無効



Disable Data Matrix
(00h)

GS1 Data Matrix の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。



Enable GS1 Data Matrix
(1)



*Disable GS1 Data Matrix
(0)

Data Matrix（反転）の有効無効

このパラメータは、反転 Data Matrix バーコードの読み取りを設定します。オプションは次のとおりです。

標準：標準 Data Matrix バーコードのみが読み取られます。



反転のみ：反転 Data Matrix バーコードのみが読み取られます。



反転の自動検出： - 標準と反転の両方の Data Matrix バーコードが読み取られます。



鏡面イメージ (Data Matrix のみ)

このパラメータは、鏡面イメージの Data Matrix バーコードの読み取りを設定します。オプションは次のとおりです。

Data Matrix (鏡面) バーコードのみ読み取り :



Always
(01h)

Data Matrix (鏡面) バーコードを読み取らない :



Never
(00h)

鏡面の自動検出 :

標準と鏡面の両方の Data Matrix バーコードが読み取られます。



* Auto
(02h)

Maxicode の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable Maxicode
(01h)

- ・ 無効



*Disable Maxicode
(00h)

QR Code の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



*Enable QR Code
(01h)

- ・ 無効



Disable QR Code
(00h)

GS1 QR の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。



***Enable GS1 QR**

(1)



Disable GS1 QR

(0)

MicroQR の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



* Enable MicroQR
(01h)

- ・ 無効



Disable MicroQR
(00h)

Linked QR Mode

次のバーコードのいずれかをスキャンして、Linked QR Mode を選択します。

- **Linked QR Only** - linked QR コードのセットから個々の QR をデコードしません。
- **Individual QR With Headers** - linked QR コードのセットから個々の QR をデコードし、ヘッダー情報とデータを保持します。
- **Individual QR No Headers** - linked QR コードのセットから個々の QR をデコードし、ヘッダー情報なしでデータを送信します。



* Linked QR Only
(0)



Individual QR With Headers
(1)



Individual QR No Headers
(2)

Aztec の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



*Enable Aztec
(01h)

- ・ 無効



Disable Aztec
(00h)

Aztec (反転) の有効無効

このパラメータは、反転 Aztec の読み取りを設定します。オプションは次のとおりです。

標準：標準 Aztec のみが読み取られます。



反転のみ：反転 Aztec のみが読み取られます。



反転の自動検出：標準と反転の両方の Aztec が読み取られます。



Han Xin の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。

- ・ 有効



Enable Han Xin
(01h)

- ・ 無効



*Disable Han Xin
(00h)

Han Xin (反転) の有効無効

このパラメータは、反転 Han Xin の読み取りを設定します。オプションは次のとおりです。

標準：標準 Han Xin のみが読み取られます。



*Regular
(00h)

反転のみ：反転 Han Xin のみが読み取られます。



Inverse Only
(01h)

反転の自動検出：標準と反転の両方の Han Xin が読み取られます。



Inverse Autodetect
(02h)

Grid Matrix の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。



Enable
(1)←



*Disable←
(0)←

Grid Matrix (反転) の有効無効

次のバーコードのいずれかをスキャンして、設定をしてください。

- Regular Only** – 通常の Grid Matrix コードのみを読み取ります。
- Inverse Only** – 白黒反転した Grid Matrix コードのみを読み取ります。
- Autodiscriminate** – 通常と白黒反転の Grid Matrix コードの両方を読み取ります。



*Regular Only
(0)



Inverse Only
(1)



Autodiscriminate

(2)

Grid Matrix Mirror

次のバーコードのいずれかをスキャンして、設定をします。

- **Regular Only** – 通常の Grid Matrix コードのみが読み取られます。
- **Mirrored Only** – 左右反転した Grid Matrix コードのみを読み取ります。
- **Autodiscriminate** – 通常と左右反転の Grid Matrix コードの両方を読み取ります。



*Regular Only

(0)



Mirrored Only

(1)



Autodiscriminate

(2)

DotCode の有効無効

有効にするか、無効にするかを選択してください。



*** Disable DotCode**

(0)



Enable DotCode

(1)

DotCode (反転) の有効無効

次のバーコードのいずれかをスキャンして、設定をします。

- Regular – 通常の DotCode コードのみを読み取ります。
- Inverse Only – 白黒反転した DotCode コードのみを読み取ります。
- Autodetect – 通常と白黒反転の DotCode コードの両方を読み取ります。



Regular

(0)



Inverse Only

(1)



* Autodetect

(2)

DotCode Mirrored

次のバーコードのいずれかをスキャンして、設定をします。

- Regular Only – 通常の DotCode コードのみが読み取られます。
- Mirrored Only – 左右反転した DotCode コードのみを読み取ります。
- Autodetect – 通常と左右反転の DotCode コードの両方を読み取ります。



Never

(0)



Always

(1)



* Autodetect

(2)

DotCode Prioritize

DotCode Prioritize を有効にして、DotCode の読取を優先します。



Disable



* Enable

■ 読み取り精度レベル

読み取り精度レベル [Redundancy Level]

デジタルイメージスキャナは、4 種類の読み取り精度レベルを設定することができます。バーコード品質レベルの低下に応じて、より高い精度レベルを選択します。精度レベルが上がれば、スキャナの読み取り速度は低下します。バーコードの品質に適した精度レベルを選択してください。

レベル 1

次のコードを読み取る際、「2 度読み一致」を行います。

Code Type	桁数
Codaber	8 桁以下
MSI	4 桁以下
D 2 of 5	8 桁以下
I 2 of 5	8 桁以下

レベル 2

次のコードを読み取る際、「2 度読み一致」を行います。

Code Type	桁数
すべて	すべて

レベル 3

次のコードタイプを読み取る場合は、「3 度読み一致」を行います。それ以外のコードタイプの場合は、「2 度読み一致」になります。

Code Type	桁数
MSI	4 桁以下
D 2 of 5	8 桁以下
I 2 of 5	8 桁以下
Codaber	8 桁以下

レベル4

次のコードタイプを読み取る際、「3 度読み一致」を行います。

Code Type	桁数
すべて	すべて



*Redundancy Level 1
(01h)



Redundancy Level 2
(02h)



Redundancy Level 3
(03h)



Redundancy Level 4
(04h)

4 値コードタイプの読み取り精度レベル [Security Level (UPC/EAN and Code 93)]

デジタルイメージスキャナは、4 値コードタイプのバーコードに対して 4 種類の読み取り精度レベルを設定することができます。このバーコードには、Code 128 ファミリ、UPC/EAN/JAN、Code 93 が含まれます。バーコード品質レベルの低下に応じて、読み取り精度レベルを上げます。読み取り精度とスキャナの読み取り速度は反比例するため、指定されたアプリケーションに必要な読み取り精度レベルだけを選択してください。

レベル 0 :

この設定では、スキャナはその性能を最大限に発揮できる状態で動作しつつ、大半の「規格内」のバーコードを読み取るために十分な読み取り精度を確保できます。



Security Level 0
(00h)

レベル 1 :

これはデフォルト設定です。4 値コードを読み取る際、「2 度読み一致」を行います。



*Security Level 1
(01h)

レベル 2 :

4 値コードを読み取る際、「3 度読み一致」を行います。



Security Level 2
(02h)

レベル 3 :

4 値コードを読み取る際、「4 度読み一致」を行います。

このオプションを選択するのは、誤解読に対する厳しく仕様バーコードからの非常手段です。このレベルのセキュリティを選択すると、デコーダーの解読能力はかなり損なわれます。このレベルのセキュリティを必要とするなら、バーコードの品質を向上させるようにしてください。



Security Level 3
(03h)

1D クワイエットゾーンレベル[1D Quiet Zone Level]

この機能は、クワイエットゾーン（バーコードの両側の余白）を減らしたバーコードを読み取るときの読取やすさのレベルを設定し、Reduced Quiet Zone 設定で有効になったシンボルに適用されます。レベルが高くなると、デコード時間が長くなり、誤読のリスクが高くなるため、より高いクワイエットゾーンレベルを必要とするシンボルのみを有効にし、他のすべてのシンボルに対しては、Reduced Quiet Zone を無効のままにしておくことを強くお勧めします。オプションは次のとおりです。

- 1D クワイエットゾーンレベル 0 -通常の動作をします。
- 1D クワイエットゾーンレベル 1 -積極的に動作します。
- 1D クワイエットゾーンレベル 2 -バーコードの終端のクワイエットゾーンのみを必要とします。
- 1D クワイエットゾーンレベル 3 -どんなものでもデコードします。



1D Quiet Zone Level 0

(0)



*1D Quiet Zone Level 1

(1)



1D Quiet Zone Level 2

(2)



1D Quiet Zone Level 3

(3)

キャラクタ間ギャップサイズ

Code 39 と Codabar (NW-7) シンボルには、通常小さなキャラクタ間ギャップがあります。バーコードの印刷技術によっては、このギャップが許容できる最大サイズより大きくなることもあり、デジタルスキャナはシンボルを読み取れなくなります。このような規格外のバーコードを処理できるようにするには、以下の「Large Intercharacter Gaps」パラメータをスキャンしてください。



*Normal Intercharacter Gaps
(06h)



Large Intercharacter Gaps
(0Ah)

■ OCR

本章では AsReader で使用可能な OCR の設定方法について説明します。

AsReader では、OCR-A と OCR-B のフォントタイプに対応しています。

※OCR をご使用の際は、**必ず OCR-A もしくは OCR-B の一方のみを有効**にしてください。

どちらも有効にした場合、誤読の原因になります。また、OCRを有効にしている場合、バーコードの読み取り精度に影響が出るため、**OCR とバーコードを同時に使用することは非推奨**となります。

OCR 設定手順

1. [「OCR の基本設定」](#)で QR コードを読み取る。
2. [「OCR-A の有効無効」](#)で OCR の読み取りを有効にする。
3. [「OCR-A のフォーマット指定」](#)で読み取る OCR のフォーマットを指定する。

※OCR-Bをお使いの際はそれぞれ、[「OCR-B の有効無効」](#)、[「OCR-B のフォーマット指定」](#)で設定してください。

OCR の基本設定[Prerequisite]

次の QR コードを初めに読み取って、OCR を使用可能な設定にします。

※OCR をご使用の際は**必ず**下記の QR コードを読み取ってから、**各々の設定項目を設定**してください。



■ OCR-A

OCR-A の有効無効

※OCR を有効にするためには、初めに [OCR の基本設定](#) の QR コードを読み取ってください。

・有効



Enable OCR-A (1)

・無効



*Disable OCR-A (0)

OCR-A のフォーマット指定[OCR-A Variant]

この設定をする前に OCR-A を有効にしてください。

OCR-A は、以下のフォーマットを設定可能です。

- OCR-A Full ASCII

!"#\$()*+,-./0123456789<>ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ¥^

- OCR-A Reserved 1

\$*+,-./0123456789ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

- OCR-A Reserved 2

\$*+,-./0123456789<>ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

- OCR-A Banking

-0123456789<> ¥HJ

銀行特殊文字は、次のような文字として出力されます。

ψ fとして出力

ϣ cとして出力

ϣ hとして出力



***OCR-A Full ASCII (0)**



OCR-A Reserved 1 (1)



OCR-A Reserved 2 (2)



OCR-A Banking (3)

■ OCR-B

OCR-B の有効無効

※OCR を有効にするためには、初めに [OCR の基本設定](#) の QR コードを読み取ってください。

・有効



Enable OCR-B (1)

・無効



*Disable OCR-B (0)

OCR-B のフォーマット指定[OCR-B Variant]

この設定をする前に OCR-B を有効にしてください。

OCR-B は、以下のフォーマットを設定可能です。

- OCR-B Full ASCII

!#\$%()*+,-./0123456789<>ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ^_|Ñ

- OCR-B Banking

#+-0123456789<>JNP|

- OCR-B Limited

+,-./0123456789<>ACENPSTVX

- OCR-B ISBN 10-Digit Book Numbers

-0123456789>BCEINPSXz

- OCR-B ISBN 10 or 13-Digit Book Numbers
-0123456789>BCEINPSXz
- OCR-B Travel Document Version 1 (TD1) 3-Line ID Cards
-0123456789<ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ
- OCR-B Travel Document Version 2 (TD2) 2-Line ID Cards
-0123456789<ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ
- OCR-B Travel Document 2 or 3-Line ID Cards Auto-Detect
!#\$%()*+,-./0123456789<>ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ^|Ñ
- OCR-B Passport
-0123456789<ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZÑ
- OCR-B Visa Type A
-0123456789<ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ
- OCR-B Visa Type B
-0123456789<ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZÑ
- OCR-B ICAO Travel Documents

この設定をすることで、TD1、TD2、Passport、Visa Type A、Visa Type B のいずれかを切り替えることなく読み取ることができます



***OCR-B Full ASCII (0)**



OCR-B Banking (1)



OCR-B Limited (2)



OCR-B ISBN 10-Digit Book Numbers (6)



OCR-B ISBN 10 or 13-Digit Book Numbers (7)



**OCR-B Travel Document Version 1 (TD1)
3 Line ID Cards(3)**



**OCR-B Travel Document Version 2 (TD2)
2-Line ID Cards (8)**



Travel Document 2 or 3-Line ID Cards Auto-Detect (20)



OCR-B Passport (4)



OCR-B Visa Type A (9)



OCR-B Visa Type B (10)



OCR-B ICAO Travel Documents (11)

OCR の指向性設定 [OCR Orientation]

OCR の読み取りの向きを次の 5 つから選択し設定します。

誤った設定を行うと、誤読の原因となります。

- ・正対 (デフォルト)
- ・反時計回り 90 度
- ・上下逆さま
- ・時計回り 90 度
- ・全方位 360 度

- ・正対



***OCR Orientation 0°(0)**

- ・反時計回り 90 度



OCR Orientation 270° Clockwise(1)

- ・上下逆さま



OCR Orientation 180° Clockwise (2)

・時計回り 90 度



OCR Orientation 90° Clockwise (3)

・全方位 360 度



OCR Orientation Omnidirectional (4)

補足情報 : ASCII コード表

読取値	Full ASCII Code 39 Encode Char.	キー入力
1000	%U	CTRL 2
1001	\$A	CTRL A
1002	\$B	CTRL B
1003	\$C	CTRL C
1004	\$D	CTRL D
1005	\$E	CTRL E
1006	\$F	CTRL F
1007	\$G	CTRL G
1008	\$H	CTRL H / BACKSPACE
1009	\$I	CTRL I / HORIZONTAL TAB
1010	\$J	CTRL J
1011	\$K	CTRL K
1012	\$L	CTRL L
1013	\$M	CTRL M / ENTER
1014	\$N	CTRL N
1015	\$O	CTRL O
1016	\$P	CTRL P
1017	\$Q	CTRL Q
1018	\$R	CTRL R
1019	\$S	CTRL S
1020	\$T	CTRL T
1021	\$U	CTRL U
1022	\$V	CTRL V
1023	\$W	CTRL W
1024	\$X	CTRL X

※Function Key Mapping が有効な場合にだけ、ボールド表示のキー入力が送られます。

でなければ非ボールド表示のキー入力が送られます。

読取値	Full ASCII Code 39 Encode Char.	キー入力
1025	\$Y	CTRL Y
1026	\$Z	CTRL Z
1027	%A	CTRL [
1028	%B	CTRL ¥ (※¥)
1029	%C	CTRL]
1030	%D	CTRL 6
1031	%E	CTRL -
1032	Space	Space
1033	/A	!
1034	/B	'
1035	/C	#
1036	/D	\$
1037	/E	%
1038	/F	&
1039	/G	'
1040	/H	(
1041	/I)
1042	/J	*
1043	/K	+
1044	/L	,
1045	-	-
1046	.	.
1047	/o	/
1048	0	0
1049	1	1
1050	2	2
1051	3	3
1052	4	4
1053	5	5
1054	6	6

読取値	Full ASCII Code 39 Encode Char.	キー入力
1055	7	7
1056	8	8
1057	9	9
1058	/Z	:
1059	%F	;
1060	%G	<
1061	%H	=
1062	%I	>
1063	%J	?
1064	%V	@
1065	A	A
1066	B	B
1067	C	C
1068	D	D
1069	E	E
1070	F	F
1071	G	G
1072	H	H
1073	I	I
1074	J	J
1075	K	K
1076	L	L
1077	M	M
1078	N	N
1079	O	O
1080	P	P
1081	Q	Q
1082	R	R
1083	S	S
1084	T	T

読取値	Full ASCII Code 39 Encode Char.	キー入力
1085	U	U
1086	V	V
1087	W	W
1088	X	X
1089	Y	Y
1090	Z	Z
1091	%K	[
1092	%L	¥ (※¥)
1093	%M]
1094	%N	^
1095	%O	_
1096	%W	'
1097	+A	a
1098	+B	b
1099	+C	c
1100	+D	d
1101	+E	e
1102	+F	f
1103	+G	g
1104	+H	h
1105	+I	i
1106	+J	j
1107	+K	k
1108	+L	l
1109	+M	m
1110	+N	n
1111	+O	o
1112	+P	p
1113	+Q	q
1114	+R	r

読取値	Full ASCII Code 39 Encode Char.	キー入力
1115	+S	s
1116	+T	t
1117	+U	u
1118	+V	v
1119	+W	w
1120	+X	x
1121	+Y	y
1122	+Z	z
1123	%P	{
1124	%Q	
1125	%R	}
1126	%S	~

補足情報：数字バーコード





6



7



8



9



Cancel

補足情報：シンボルコード ID 表

Code Character	Code Type
A	JAN(UPC-A, UPC-E, UPC-E1, EAN-8, EAN-13)
B	Code 39, Code 32
C	NW7(Codabar)
D	Code 128, ISBT 128, ISBT 128 Concatenated
E	Code 93
F	Interleaved 2 of 5
G	Discrete 2 of 5, or Discrete 2 of 5 IATA
H	Code 11
J	MSI
K	GS1-128
L	Bookland EAN
M	Trioptic Code 39
N	Coupon Code
R	GS1 DataBar Family
S	Matrix 2 of 5
T	UCC Composite, TLC 39
U	Chinese 2 of 5
V	Korean 3 of 5
X	ISSN EAN, PDF417, Macro PDF417, Micro PDF417
z	Aztec, Aztec Rune
P00	Data Matrix
P01	QR Code, MicroQR
P02	Maxicode
P03	US Postnet
P04	US Planet
P05	Japan Postal
P06	UK Postal
P08	Netherlands KIX Code
P09	Australia Post
P0A	USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail
P0B	UPU FICS Postal

P0D	Grid Matrix, Grid Matrix Inverse, Grid Matrix Mirror
P0G	GS1 Data Matrix
P0H	Han Xin
P0Q	GS1 QR
P0X	Signature Capture

補足情報 : AIM コード ID 表

各 AIM コード ID は、**]cm** の 3 文字で構成されています。

] = フラグキャラクタ (ASCII 93)

c = コードキャラクタ (補足情報 : AIM コード ID 表)

m = 修飾キャラクタ (補足情報 : 修飾キャラクタ表)

Code Character	Code Type
A	Code 39, Code 39 Full ASCII, Code 32
C	Code 128, ISBT 128, ISBT 128 Concatenated, GS1-128, Coupon (Code 128 portion)
d	Data Matrix
E	JAN(UPC/EAN), Coupon (UPC portion)
e	GS1 DataBar Family
F	NW7(Codabar)
G	Code 93
H	Code 11
I	Interleaved 2 of 5
L	PDF417, Macro PDF417, Micro PDF417
L2	TLC 39
M	MSI
Q	QR Code, MicroQR
S	Discrete 2 of 5, IATA 2 of 5
U	Maxicode
z	Aztec, Aztec Rune
X	Bookland EAN, ISSN EAN, Trioptic Code 39, Chinese 2 of 5, Matrix 2 of 5, Korean 3 of 5, US Postnet, US Planet, UK Postal, Japan Postal, Australia Post, Netherlands KIX Code, USPS 4CB/One Code/ Intelligent Mail, UPU FICS Postal, Mailmark, Signature Capture
]g	Grid Matrix, Grid Matrix Inverse, Grid Matrix Mirror

補足情報：修飾キャラクタ表

修飾キャラクタは以下の表に基づく適切な Option Value の合計です。

Code Type	Option Value	Option
Code 39		
	0	チェックキャラクタは確認されません。Full ASCII 変換は行いません。
	1	チェックキャラクタ 1 桁がチェックされます。
	3	チェックは有効ですがチェックキャラクタは取り除かれます。
	4	Full ASCII 変換が行われています。
	5	Full ASCII 変換を行いチェックキャラクタ 1 桁がチェックされます。
	7	Full ASCII 変換を行います、チェックキャラクタは取り除かれます。
	例：Full ASCII(チェックキャラクタ W 付)のバーコード A+I+MI+DW は JA7AimId として送信されます。※ 7 = 3+4	
Trioptic Code 39		
	0	現時点で指定オプションはありません。常に 0 が送信されます。
	例：Trioptic 形式のバーコード 412356 は JX0412356 として送信されます。	
Code 128		
	0	標準データパケット、最初のシンボルキャラクタ位置に FNC1 がありません。
	1	最初のシンボルキャラクタ位置に FNC1 があります。
	2	2 番目のシンボルキャラクタ位置に FNC1 があります。
	例：Code 128(EAN)形式（最初のシンボルキャラクタ位置に FNC1）のバーコード FNC1Aim Id は JC1AimId として送信されます。	
I 2 of 5		
	0	チェックディジットは確認されません。
	1	チェックディジットは確認されます。
	3	チェックディジットは確認されます、取り除かれます。
	例：I 2 of 5 形式(チェックディジットなし)のバーコード 4123 は J104123 として送信されます。	

Code Type	Option Value	Option
NW7(Codabar)		
	0	チェックディジットは確認されません。
	1	チェックディジットは確認されます。
	3	Reader has stripped check digit before transmission.
		例：NW7(Codabar)形式(チェックディジットなし)のバーコード 4123 は JF04123 として送信されます。
Code 93		
	0	現時点で指定オプションはありません。常に 0 が送信されます。
		例：Code 93 形式のバーコード 012345678905 は JG0012345678905 として送信されます。
MSI		
	0	チェックディジットは送信されます。
	1	チェックディジットは送信されません。
		例：MSI 形式(シングル チェックディジット付)のバーコード 4123 は JM14123 として送信されます。
D 2 of 5		
	0	現時点で指定オプションはありません。常に 0 が送信されます。
		例：D 2 of 5 形式のバーコード 4123 は JS04123 として送信されます。
JAN(UPC/EAN)		
	0	全 EAN(JAN)カントリーコードフォーマットの標準パケットで、UPC-Aと UPC-E、EAN-13 の場合は 13 桁 (サブメンタルデータを含まない)
	1	2 桁のサブメンタルデータのみ
	2	5 桁のサブメンタルデータのみ
	3	13 桁の UPC-A、UPC-E、または EAN-13 シンボルと 2 桁または 5 桁のサブメンタルシンボルで構成されるデータパケット。
	4	EAN-8 (JAN-8) データパケット。
		例：UPC-A 形式のバーコード 012345678905 は JE00012345678905 として送信されます。
Bookland EAN		
	0	現時点で指定オプションはありません。常に 0 が送信されます。
		例：Bookland EAN 形式のバーコード 123456789X は JX0123456789X として送信されます。
ISSN EAN		
	0	現時点ではオプションが指定されていないため、常に 0 を転送する。

		例：ISSN EAN バーコードの場合、123456789X は、 JX0 123456789X として転送される。
Code 11		
	0	1 つのチェックディジット
	1	2 つのチェックディジット
	3	チェックキャラクタが確認されるが、転送されない。
GS1 DataBar Family		
		現時点ではオプションが指定されていないため、常に 0 を転送する。GS1 DataBar と GS1 DataBar Limitd では、アプリケーション ID「01」が一緒に転送される。 注意： GS1-128 エミュレーションモードでは、GS1 DataBar は Code 128 ルールを使用して転送される。（つまり、JC1）
		例：GS1 DataBar バーコードの場合、0110012345678902 は、 Je00 110012345678902 として転送される。
EAN.UCC コンポジット（GS1 DataBar、GS-128、UPC コンポジットの 2D 部分）		
		ネイティブモード転送。 注意： コンポジットの UPC 部分は、UPC ルールを使用して転送される。
	0	標準データパケット。
	1	データの先頭にエンコードされたシンボルセパレータキャラクタが付加されるデータパケット。
	2	データの先頭にエスケープメカニズムキャラクタが付加されるデータパケット。このデータパケットは、ECI プロトコルをサポートしない。
	3	データの先頭にエスケープメカニズムキャラクタが付加されるデータパケット。このデータパケットは、ECI プロトコルをサポートする。
		GS1-128 エミュレーション。 注意： コンポジットの UPC 部分は、UPC ルールを使用して転送される。
	1	データパケットは GS1-128 シンボル（つまり、データの先頭に JC1 が付加される）。
PDF417, Micro PDF417		
	0	スキャナが、1994 年の PDF417 バーコード仕様で規定されたプロトコルに適合するように設定された。 注意： このオプションが転送されると、受信側は、ECI が呼び出されたか、または転送中にデータバイトの 92 _{DEC} が 2 倍になったかを確実に判別できません。
	1	スキャナが、ECI プロトコル（拡張チャネル解釈）に適合するように設定

		された。すべてのデータキャラクタの 92 _{DEC} は 2 倍になる。
	2	<p>スキャナが、基本チャネル処理（エスケープキャラクタなし転送プロトコル）に適合するように設定された。</p> <p>データキャラクタの 92_{DEC} は 2 倍にならない。</p> <p>注意：デコーダーがこのモードに設定されると、バッファされなかった MicroPDF シンボルやデコーダーに ECI エスケープシーケンスの送信を要求するシンボルは転送できません。</p>
	3	バーコードは、GS1-128 シンボルからなり、最初のコードワードは、903～907、912、914、915。
	4	バーコードは、GS1-128 シンボルからなり、最初のコードワードは、908～909 までの範囲内。
	5	バーコードは、GS1-128 シンボルからなり、最初のコードワードは、910～911 までの範囲内。
		例：PDF417 バーコードで有効な転送プロトコルがない場合、ABCD は、JL2ABCD として転送される。
Data Matrix		
	0	ECC 000-140（サポート対象外）
	1	ECC 200.
	2	1 番目または 5 番目の位置に FNC1 がある ECC 200
	3	2 番目または 6 番目の位置に FNC1 がある ECC 200
	4	ECI プロトコルを実装した ECC 200
	5	1 番目または 5 番目の位置に FNC1 があり、ECI プロトコルを実装した ECC 200
	6	2 番目または 6 番目の位置に FNC1 があり、ECI プロトコルを実装した ECC 200
GS1 Data Matrix		
	2	1 番目または 5 番目の位置に FNC1 がある ECC 200。MaxiCode
MaxiCode		
	0	モード 4 または 5 のシンボル
	1	モード 2 または 3 のシンボル
	2	ECI プロトコルを実装したモード 4 または 5 のシンボル
	3	セカンダリメッセージに ECI プロトコルを実装したモード 2 または 3 のシンボル
QR Code		
	0	モデル 1 のシンボル

	1	ECI プロトコルを実装していないモデル 2 / MicroQR のシンボル
	2	ECI プロトコルを実装したモデル 2 のシンボル
	3	ECI プロトコルを実装しておらず、最初の位置に FNC1 があるモデル 2 のシンボル
	4	ECI プロトコルを実装しており、最初の位置に FNC1 があるモデル 2 のシンボル
	5	ECI プロトコルを実装しておらず、2 番目の位置に FNC1 があるモデル 2 のシンボル
	6	ECI プロトコルを実装しており、2 番目の位置に FNC1 があるモデル 2 のシンボル
GS1 QR		
	3	ECI プロトコルを実装しておらず、最初の位置に FNC1 があるモデル 2 のシンボル
Aztec		
	0	Aztec シンボル
	C	Aztec Rune シンボル.

補足情報：よくあるご質問・問合せ

よくある質問・問合せをまとめています。

- 問合せ内容

1桁目が"0(ゼロ)"で始まる JAN-13 を読み取ると 12 桁になってしまう。

- 回答

1桁目が"0"（ゼロ）ではじまる JAN-13 は、バーコードのバーとスペースの構成上、UPC-A と同一の状態です。

そのため、AsReader は UPC-A と判別しています。

UPC-A は 12 桁で扱われるバーコードで、先頭の 0 はデータとして存在しません。

そのため EAN-13(JAN-13)と同じ 13 桁がホストの期待値と設定されているならば、データ不整合のためホストが正常に処理できていない可能性があります。

この場合は UPC-A Preamble パラメータを System Character & Country Code に設定して UPC-A の桁数を 13 桁に変換してください。

本マニュアルの C-15 ページの 3 つ目のバーコード「**国番号とシステム文字**」を読むことで対応できます。